

みる・かたる・つくる

千葉県立美術館年報

昭和60年度

CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART



千葉県立美術館全景

目 次

ご あ い さ つ	1
沿革・運営方針	2
管 理 運 営	3
機 構	4
予 算	6
収 蔵 資 料	7
施 設	11
事 業	15
常 設 展	16
特 別 展	20
企 画 展	25
県 芸 術 祭	28
団 体 展	30
教育・普及	34
事 業 一 覧	42
利 用 状 況	44
作品貸出一覧	45
刊行物一覧	46
日 誌 抄	46
関 係 法 令 等	47
昭和61年度展覧会等	49
利 用 案 内	50

ごあいさつ

昭和60年度における千葉県立美術館の運営状況を取りまとめ、年報として刊行しましたので、お届けします。

本館は昭和49年に開館して以来“みる・かたる・つくる”活動を総合的に展開しながら美の広場の確立をめざして努力してまいりました。昭和60年度においても、地域に根ざした美術館として、郷土出身の作家の展覧会を開催し、その画業を顕彰するとともに、近代美術館として、優れた美術作品を鑑賞する機会を提供するため、国際的視野に立って外国作家の作品による特別展を開催しました。更に館の収蔵作品による常設展示や移動展覧の充実にも努めました。

また、美術についての理解を深め、作品鑑賞の一助とするため、本館企画の展覧会と関連づけて美術に関する講演会や座談会を開催するとともに、美術の各分野にわたる実技講座を開催し、創作技術を習得する場を提供しました。

一方、作家や所蔵家の協力を得て、美術資料集方針に基づき、収蔵作品の充実を図りました。

昭和61年3月には京葉線の西船橋・千葉みなと駅間が開通し、併せて、美術館行きのバスも平日運行されるようになりました。

更に、千葉みなと駅から臨海公園までのプロムナードも整備され、臨海公園内に建設が進められてきた千葉ポートタワーも完成に近づき、6月15日の県民の日にはオープンされます。

美術館周辺環境が整備されるに伴って、入館者も増大するものと予想されます。

今後も、館員一同、親しまれる美術館づくりに邁進していく所存ですので、関係諸機関及び各団体並びに県民の皆様の一層の御指導と御支援をお願いいたします。

昭和61年5月

千葉県立美術館長

平 野 馨

沿革

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基き、建設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた。同51年2月に第2期工事の管理棟が、同55年2月に第3期工事の県民アトリエ棟が完成した。

昭和44年12月9日 第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる(委員15名)

昭和45年1月19日 県立美術館建設の請願書が2月県議会で採択される

昭和45年7月24日 建設地として千葉公園に内定する

昭和45年11月12日 第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる(委員10名)

昭和46年3月31日 千葉公園内の美術館基本構想なる体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる

昭和46年6月24日 代案として千葉市中央港埋立地が提示される

昭和47年1月5日 建設地を千葉市中央港の埋立地に決定し、使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する

昭和47年3月31日 基本設計完了する(株式会社大高建築設計事務所)

昭和47年7月31日 展示棟 第1期工事の実施設計完了する。

昭和47年9月21日 展示棟杭工事着工

昭和47年10月13日 展示棟建築工事請負契約議案可決される

昭和47年12月10日 展示棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)

昭和48年4月1日 文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たる。

昭和48年11月30日 管理棟(第2期工事)の実施設計完了する

昭和49年3月31日 展示棟建築工事竣工

昭和49年4月1日 千葉県立美術館発足する職員14名

昭和49年10月23日 開館記念式典を行う

昭和49年10月24日 開館記念展「千葉県美術展覧会」を開催 一般公開を始める

昭和50年2月21日 管理棟杭工事着工

昭和50年3月13日 管理棟建築工事請負契約議案可決される

昭和50年3月16日 管理棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社

竹中工務店)

昭和51年2月10日 管理棟建築工事竣工

昭和51年3月2日 管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する

昭和51年6月7日 寄付によって、正面玄関に植栽を行なう

昭和52年3月12日 彫刻の屋外展示をはじめめる

昭和52年4月10日 展示棟の一室に美術普及室を開設する

昭和53年1月18日 外構工事として、駐車場が拡張され、100台の収容となる。

昭和53年2月21日 美術普及棟の準備会が発足する

昭和53年10月17日 債務負担行為によって美術普及棟建築予算がつく

昭和53年11月18日 浅井忠像 完成除幕式

昭和53年11月30日 美術普及棟実施設計完了する

昭和54年1月8日 美術普及棟を県民アトリエ棟と改称する

昭和54年3月5日 県民アトリエ棟建築工事請負契約議案可決される

昭和54年3月22日 県民アトリエ棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)

昭和55年2月29日 県民アトリエ棟建築工事竣工

昭和55年3月16日 県民アトリエ棟完成記念講演会

昭和55年9月9日 県民アトリエ棟情報資料室を開設する

昭和58年7月29日 美術普及コーナーを開設する

昭和58年11月12日 開館10周年と県展開催35周年を記念した記念碑を建立する

昭和58年12月31日 屋外展示場の園路及び彫像台座工事の一部が完成する

運営方針

- 県民のための美術館として、明るく親しまれる美術館。
- 学校教育・社会教育との関連から、教育普及活動を重視し、楽しく学べる美術館。
- 県民と美術家との交流の広場とし、相互の理解と向上を図る美術館。
- 房総の地にかかわりのある作家の作品と、関係資料の収集と研究をめざす美術館。
- 美の広場として、広く美術資料・情報等を収集し、みる・かたる・つくる活動を総合的に展開する美術館。

管 理 運 営

館長以下20名の職員で、館の管理運営に当たった。

館長の諮問機関である美術館協議会を年4回開催して、館の運営について意見を求めた。特に、6月10日には、昭和59年9月25日付けで諮問していた「千葉県立美術館運営の今後のあり方」について答申が行われた。

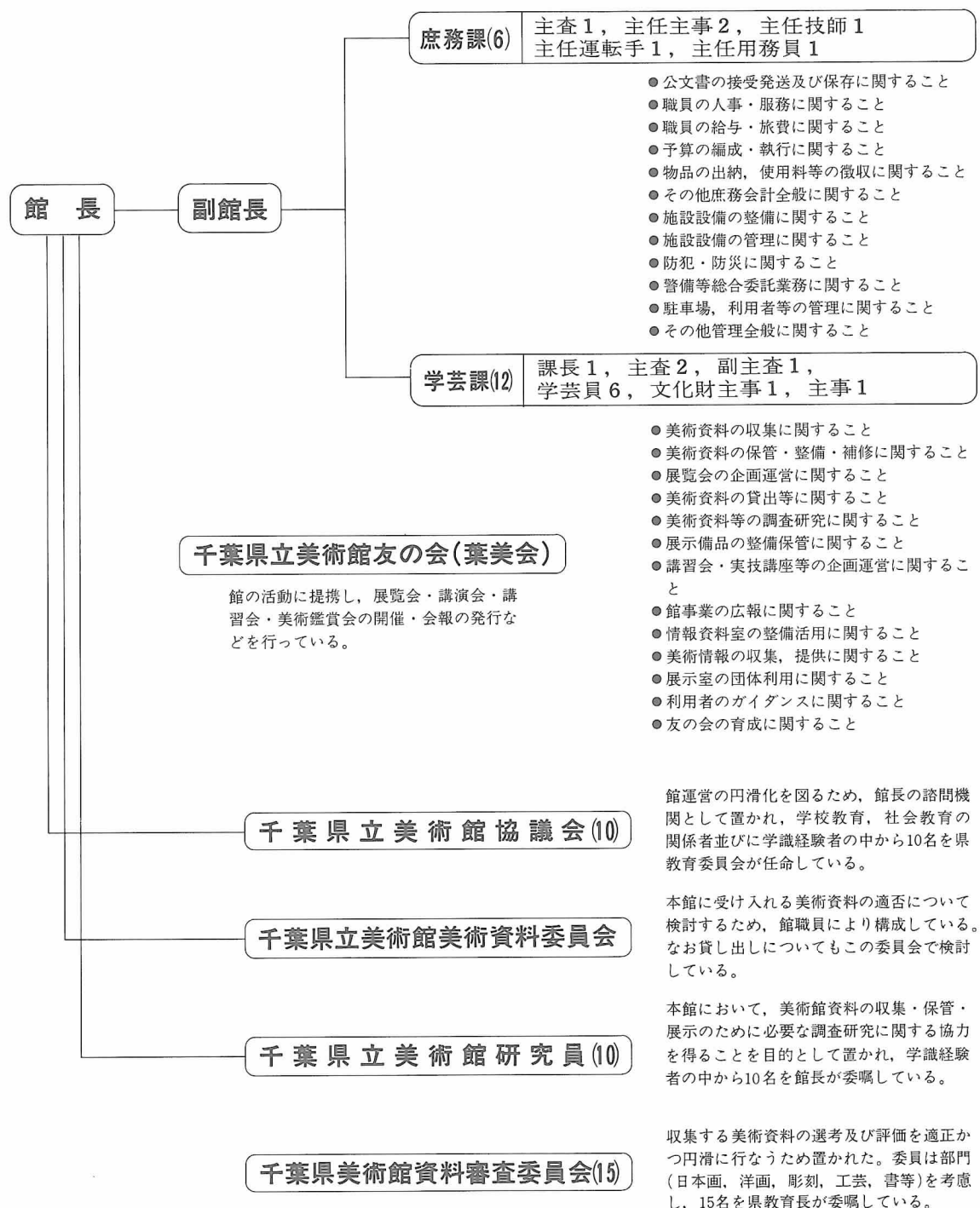
美術館研究員の活動としては、主として本館の所蔵している浅井忠の「従征画稿」の研究を行った。

資料収集については日本画52点、洋画5点、彫塑24点、工芸11点、版画6点を新たに収蔵した。

また、施設整備の面では収蔵庫蒸気発生器の改修や展示室採光窓の取付け等の工事を行った。

機 構

組織及び事務分掌（61.3.31現在）



職 員

館 長 平 野 馨
副 館 長 糸 賀 茂 夫

庶 務 課

主 査 林 康 高
主 任 主 事 菅 井 富 美 子
〃 一 杉 徹
主 任 技 師 岩 瀬 隆 司
主 任 運 転 手 篠 原 恒 雄
主 任 用 務 員 長 島 則 子

学 芸 課

課 長 中 村 哲
主 査 中 地 昭 男
〃 鈴 木 喜 久 夫
学 芸 員 米 田 耕 司
〃 藤 川 正 司
〃 小 泉 幸 代
〃 相 川 順 子
副 主 査 高 村 照 夫
学 芸 員 大 久 保 守
文 化 財 主 事 田 坂 浩
主 事 武 内 喜 美 子
学 芸 員 金 田 雅 成

千葉県立美術館協議会委員

氏 名	役 職
石 田 好 徳	千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会会長
遠 藤 健 郎	画 家
国 松 実 枝 子	船橋市教育委員
郡 司 幹 雄	千葉県文化財保護審議会副会長
笹 岡 了 一	千葉県美術会会長
鈴 木 民 三	千葉県立美術館友の会会長
高 橋 恒 三	和洋女子大学常務理事
戸 田 禎 佑	東京大学教授
野 口 貞 子	千葉市婦人グループ連絡会役員
牧 田 茂	白梅学園短期大学教授

(五十音順，敬称略)

千葉県立美術館研究員

氏 名	役職・勤務先等	氏 名	役職・勤務先等
池 田 伊 予	千葉市立越智中学校教諭	田 辺 宏	勝浦市立興津中学校教諭
石 倉 総 子	千葉市立こてはし台中学校教諭	平 戸 美和子	千葉市教育センター
加曾利 和 夫	千葉市立高洲第二中学校教頭	南 隆 一	横芝町立横芝中学校教諭
佐 藤 修	佐原市立佐原中学校教諭	村 田 哲 朗	東京芸術大学美術学部教育資料編纂室
高 木 正	流山市立西初石小学校教頭	綿 貫 啓 一	船橋市企画部情報管理課

(五十音順, 敬称略)

予 算

昭和60年度予算概要

(単位：千円)

事 業 名		予算額	事 業 概 要
運 営 費	展示事業費	15,470	特別展 2 企画展 2 常設収蔵作品展
	普及事業費	2,412	実技講座・講演会の実施等 館報・年報・事業案内等の発行
	調査研究費	480	資料調査, 研究員会議等
	維持管理費	104,711	施設管理, 設備・機械保守委託 その他運営費
施 設 整 備 費	施設整備費	42,000	美術資料 美術図書 展示用備品 視聴覚備品視聴覚備品等
	工 事 費	17,000	収蔵庫蒸気発生器改修工事 展示室採光窓取付工事等
合 計		182,073	

注) ○職員の人件費は含まない。

○別に資料購入のための基金 2 億円。

収蔵資料

収蔵資料（昭和61年 3 月31日現在）

収蔵別内訳

種別	区分	保管換	購 入	寄 附	合 計
日 本 画		24	43	106	173
洋 画		35	188	280	503
彫 塑		10	47	23	80
工 芸		9	53	32	94
書		14	14	35	63
版 画		3	85	46	134
合 計		95	430	522	1,047
教 究 資 料		73	127	1,216	1,416
教 育 資 料		116	0	239	355
合 計		189	127	1,455	1,771

昭和60年度新収蔵作品一覧

日 本 画

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材 質・形 状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	石 井 林 響	高 士 観 瀑	不 詳	絹 ・ 着 彩	145.5× 51.0	購 入
2	〃	釣 人	昭和2	紙 ・ 墨 ・ 着 彩	26.1× 23.0	〃
3	〃	雨 後 浮 船	不 詳	絹 ・ 墨 ・ 着 彩	120.8× 41.5	〃
4	〃	秋 景 山 水	昭和3	紙 ・ 墨	134.7× 30.7	〃
5	〃	梅 花 小 禽	不 詳	絹 ・ 着 彩	115.5× 41.0	〃
6	〃	梅 花 井 泉	不 詳	絹 ・ 着 彩	29.6× 24.0	〃
7	〃	白 閑 鳥	不 詳	絹 ・ 着 彩	105.5× 35.2	〃
8	〃	瑞 鶴	不 詳	絹 ・ 墨 ・ 着 彩	105.2× 39.5	〃
9	〃	羅 浮 仙 女	不 詳	絹 ・ 墨 ・ 着 彩	115.3× 32.8	〃
10	大 森 運 夫	灯 翳 ・ 肅 宴	昭和45	紙・着 彩・2面1組	各166.5×303.0	〃
11	横 尾 芳 月	熱 海 風 景	昭和38	紙 ・ 着 彩	153.2×198.8	寄 附
12	〃	石 仏	昭和39	紙 ・ 着 彩	213.0×152.7	〃
13	〃	夕 粧	昭和56	紙 ・ 着 彩	162.3×130.4	〃
14	富 取 風 堂	游 鯉（其一）	昭和3	絹 ・ 着 彩	174.0× 72.0	〃
15	〃	游 鯉（其二）	昭和3	絹 ・ 着 彩	174.0× 72.0	〃
16	〃	朝 光	昭和6	絹 ・ 着 彩	70.0×103.0	〃
17	〃	斜 陽（夏すがた其一）	昭和11	絹 ・ 着 彩	174.0× 72.0	〃
18	〃	夜 （夏すがた其二）	昭和11	絹 ・ 着 彩	174.0× 72.0	〃
19	〃	葛 西 風 景	昭和12	絹 ・ 着 彩	91.0×116.0	〃
20	〃	厩 舎	昭和13	絹 ・ 着 彩	174.0× 72.0	〃
21	〃	漁 村 の 初 夏	昭和17	絹 ・ 着 彩	138.0×175.5	〃
22	〃	秋 の 草	昭和18	絹 ・ 着 彩	76.5×117.0	〃
23	〃	仔 馬	昭和24	紙 ・ 着 彩	169.0× 98.0	〃
24	〃	漁 港 の 朝	昭和25	紙 ・ 着 彩	167.0× 97.0	〃
25	〃	漁 港 の 夕	昭和25	紙 ・ 着 彩	126.0× 97.0	〃
26	〃	夕 顔	昭和26	紙 ・ 着 彩	147.5×102.5	〃
27	〃	洋 蘭	昭和27	紙 ・ 着 彩	122.0×106.0	〃

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
28	富取風堂	花	昭和28	紙・着彩	150.0×99.0	寄附
29	〃	花籠	昭和29	紙・着彩	164.5×107.5	〃
30	〃	残照	昭和29	紙・着彩	152.0×107.0	〃
31	〃	初秋	昭和30	紙・着彩	155.0×101.0	〃
32	〃	晩秋	昭和30	紙・着彩	151.5×106.5	〃
33	〃	魚と果	昭和31	紙・着彩	127.0×97.0	〃
34	〃	花	昭和32	紙・着彩	151.0×96.0	〃
35	〃	蟹	昭和33	紙・着彩	97.0×129.7	〃
36	〃	夕	昭和35	紙・着彩	154.0×123.0	〃
37	〃	駅路	昭和36	紙・着彩	124.3×154.5	〃
38	〃	暮色	昭和37	紙・着彩	121.0×166.5	〃
39	〃	雨の花	昭和38	紙・着彩	181.5×121.5	〃
40	〃	親子猿	昭和39	紙・着彩	181.5×121.5	〃
41	〃	河畔	昭和40	紙・着彩	181.0×121.0	〃
42	〃	麦秋	昭和46	紙・着彩	122.0×164.5	〃
43	〃	初夏	昭和47	紙・着彩	152.3×122.0	〃
44	〃	うすれ陽	昭和50	紙・着彩	152.5×122.5	〃
45	〃	きびと茄子	不詳	紙・着彩	127.0×96.5	〃
46	〃	山桜と民家	不詳	紙・着彩	82.0×95.5	〃
47	大森運夫	時空往還	昭和58	紙・着彩	197.0×270.0	〃
48	松尾敏男	歴程	昭和59	紙・着彩	227.8×162.7	〃
49	村松乙彦	菊人形	昭和17	紙・着彩	226.0×197.0	〃
50	〃	化粧	昭和22	紙・着彩	250.0×183.0	〃
51	〃	アイヌ	昭和30	紙・着彩	143.0×103.0	〃
52	〃	空	昭和50	紙・着彩	208.6×144.0	保管換

洋画

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	小柳吉次	叢	昭和59	キャンバス・油彩	130.0×162.0	購入
2	赤城泰舒	風景	不詳	紙・水彩	28.5×38.0	寄附
3	日野耕之祐	黒い雲	昭和59	キャンバス・油彩	130.0×162.0	〃
4	宮嶋美明	慾望	昭和50	キャンバス・油彩	97.0×162.0	〃
5	〃	少女	昭和56	キャンバス・油彩	72.6×53.1	〃

彫塑

番号	作品名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
1	山本正道	ヴァージニア	昭和54	ブロンズ	22.0×100.0×40.0	購入
2	六崎敏光	暖流	昭和59	ブロンズ	106.0×105.0×52.0	〃
3	梅原正夫	なかよし	昭和60	アルミ	100.0×120.0×50.0	〃
4	山崎猛	木馬の詩	昭和59	ブロンズ	95.0×125.0×65.0	〃
5	金田雄作	"Bed Room" N氏邸見取図より	昭和59	ブロンズ	50.0×170.0×110.0	〃
6	酒井良	時を刻む	昭和60	石	110.0×230.0×70.0	〃
7	高田大	リラックス	昭和59	石	90.0×63.0×20.0	〃

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
8	三木俊治	行列	昭和60	ブロンズ・コールテン鋼	148.0×477.2×12.0	購入
9	佐藤忠良	ラッパ帽	昭和57	ブロンズ	47.5×18.8×27.5	〃
10	舟越保武	婦人像	昭和60	ブロンズ	47.0×45.0×30.0	〃
11	久保田俣通	さりげなく	昭和60	ブロンズ	170.0×40.0×40.0	〃
12	原武典	水の中の太陽('81)	昭和56	真鍮	100.0×195.0×24.0	〃
13	島田勝吾	少女と鳥	昭和56~57	ブロンズ	136.0×34.0×46.0	〃
14	〃	人間家族・妻の肖像	昭和44	ブロンズ	32.0×20.0×29.0	〃
15	大國丈夫	ヨガ	昭和59	ブロンズ	32.5×73.0×65.0	〃
16	堀川恭	聖なる佇立	昭和56	木	2体1組 195.0×45.0×45.0	〃
17	六崎敏光	香風	昭和59	ブロンズ	87.0×20.0×20.0	寄附
18	梅原正夫	母と子	昭和59	ブロンズ	58.0×35.0×15.0	〃
19	三木俊治	北国からの男	昭和48	ブロンズ	32.0×20.0×25.0	〃
20	山本正道	エトルリアの壺	昭和60	ブロンズ	25.0×170.0×32.0	〃
31	久保田俣通	若き悩み	昭和45	ブロンズ	180.0×45.0×75.0	〃
22	原武典	水の中の太陽('82)	昭和57	真鍮	180.0×64.0×62.0	〃
23	堀川恭	丸いフォルム	昭和50	木	3体1組各 42.8×22.8×18.8 42.8×22.8×18.8 42.8×22.8×18.8	〃
24	北村西望	二人の天女	大正13	ブロンズ	42.0×41.7×19.4	〃

工 芸

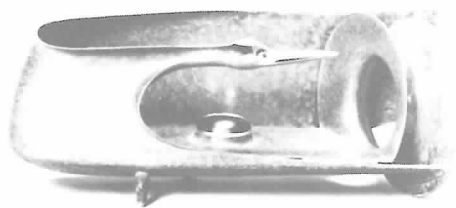
番号	作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
1	津田信夫	荒鷺	昭和17	鑄金	52.0×18.5×21.0	購入
2	〃	唐獅子置物	昭和21	鑄金	22.0×46.5×15.0	〃
3	〃	水牛	不詳	鑄金	24.0×52.0×24.0	〃
4	〃	犬	不詳	鑄金	31.0×37.5×10.5	〃
5	〃	老子	不詳	鑄金	34.0×42.0×15.0	〃
6	〃	兎	不詳	鑄金	22.5×30.0×16.0	〃
7	鈴木治平	湿原の詩	昭和60	鍛金	26.0×63.0×26.0	〃
8	会田富康	青銅双鳥置物	不詳	鑄金	27.0×23.0×12.0	〃
9	津田永寿	鳥の花器	昭和54	鑄金	34.3×50.0×14.0	〃
10	会田富康	蓋のある青銅壺	昭和40	鑄金	35.0×36.5×33.5	寄附
11	津田永寿	幾星霜	昭和45	鑄金	125.0×33.0×35.5	〃

版 画

番号	作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	牛玖健治	作品発芽	昭和32	うるし版	105.0×74.0	寄附
2	〃	2人	昭和41	エッチング・アクアチント	49.5×31.0	〃
3	〃	作品発芽	昭和53	エッチング	42.0×30.0	〃
4	〃	作品鏡	昭和55	エッチング・アクアチント	30.0×40.0	〃
5	〃	作品発祥	昭和56	エッチング・アクアチント	42.0×30.0	〃
6	〃	ゆうえんち	昭和58	エッチング・アクアチント	30.0×42.0	〃

研究資料

番号	資 料 名		数量	受入方法
1	高村光太郎資料	書 簡	1	寄 附
2	富取風堂資料	下絵・スケッチ類	662	"
3	"	スケッチブック(1)	1	"
4	"	スケッチブック(2)	1	"



鈴木治平「湿原の詩」



松尾敏男「歷程」



佐藤忠良「ラップ帽」

施 設

この建物は、幾つかの建設候補地の中から、千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手時はこの付近は訪れる人も少なく、海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で、空気汚染、降下媒塵そして塩害など、建物に与える悪影響が予測されるために、材料の選択、構法、空調計画等は十分な検討がなされた。以下、主な部分について記す。

外壁の打込みタイル-先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり、珧器質タイルを型枠代にしてコンクリートと一体に打ち込む構法を用いた。

使用したタイルは従来の断面と異なり、コの字型の断面をしており、型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を5cmの厚味にしてある。

施工方法は、内型枠、配筋工程の次のタイルを積み5段毎に型枠のホームタイを通し、2.400mm程度まで積み上げ単管にて固定する。この2.400mmの高さは、設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は、縦方向に角材を400ピッチに通し、横方向に単管を480ピッチに通し固定したが、施工時は、縦方向に単管を480ピッチに通して固定した。コンクリートの打設は、1.5m～2.0m/hの速度を目標に行い、ポンプにて打設可能な程度までスランプを下げた。この工程を繰返しタイル壁面を構成していった。

タイル面の施工時の汚れ防止には、ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ、表面に表われない目地の空隙にコンクリートのノロが滲み込んでゆき、目地からの滲透水を防ぎ満足する状態に仕上がった。

屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで、勾配屋根に適し、十分にもちこたえられる材料としては耐候性鋼等が考えられたが調査の結果により天然スレートを使用した。

空調計画

計画当初より、良好とはいえない外部環境から美術品をいかに保護するかが、海浜に建つ美術館として、ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは、内部に自動巻取りフィルター、ユニット型フィルター、活性炭フィルター、キャピラリーワッシャーの4種類の空気清浄フィルターを組込んだ外気処理器を通して供給

されている。

展示棟はCAV(定風量型)+VAV(可変風量型)方式により計画されている。わが国の美術館は、平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常に利用者がふえて、発熱負荷の変動が大きくなる。VAV方式は、こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は、エネルギーの省力化にも役立つVAV方式を採用し、収蔵庫は、露点再熱制御方式により二つの条件の異なる収蔵庫を2台の空調機で空調されている。

照明計画

展示壁面は、自然光源と人工光源とにより全体計画されている。

自然光源は展示室の高窓から取り入れられ、外部の溝型ガラスと内部の紫外線吸収のアクリル拡散板を経て壁面に達する。しかし、太陽直射光の鉛直面照度は8時から15時の間で10%の時間が80.000lx以上、30%の時間が50.000lx以上、50%の時間が25.000lx(平均)以上、90%の時間が5.000lx以上という測定値がありまた水平面照度にしても50.000lx(薄晴)から5.000lx(曇天)の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は、調光通路内に設けられた2枚の電動スクリーン(これは、計算値により鉛直面照度60.000lx以上の条件のとき必要な枚数で、それぞれ異なった透過率を有する布を使用した)にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による透過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果、クロスは白地のポリエステル(透過率53.6%)と黒地のジョーゼット(透過率35%)の2枚を採用した。ここで留意すべき点は、クロスの遮光性能を良くするために、厚地の布や、コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は、視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては、蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは、演色性を高めるためである。

第1、2展示室は、すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は、最高200lxに押えてある。

固定ケースは基準照度を180lxに設定した。照明方法は、全面アルミルーバーの天井ふところに蛍光灯を2本並列させ、その間に白熱灯2個を配置した。

【設計監理者】

建築：大高建築設計事務所
構造：木村俊彦構造設計事務所
設備：科学応用冷暖研究所
備品：大高建築設計事務所

【施工者】

建築：(株)竹中工務店
設備：空調＝東洋熱工業(株)，衛生＝第一管工事(株)，
電気＝関東電気工事(株)
備品：天童木工，山口木材，佐々木ブラインド

【階 数】

地下1階，地上2階，塔屋1階建

【高 さ】

基礎底まで：GL－5.00m，最高軒高 GL＋9.33，
最高高さ：GL＋15.20m

【都市計画地域指定】

用途地域：準工業地域

【規模・面積】

敷地面積：33,057.87㎡，建築面積：7,641.9㎡，建
ぺい率：23.11%，延床面積：8,970.85㎡，展示棟＝
5,194.59㎡，管理棟＝2,274.60㎡，県民アトリエ棟
＝1,501.66㎡，駐車台数：100台

【構 造】

主体構造：鉄筋コンクリート造（プレストレスト導
入），屋根：鉄骨造／主鋼材の種類：H型，山型，平
鋼＝SS41および高張力鋼，PC鋼棒／コンクリ
ートの種類：A種・普通コンクリート（基礎・地中梁
・1階スラブ） $F_c=210\text{kg}/\text{cm}^2$ ，B種・軽量コンクリ
ート（梁・スラブ用・地上部） $F_c=300\text{kg}/\text{cm}^2$ ，C種
・軽量コンクリート（地上部躯体でA，B以外の梁
・壁など） $F_c=240\text{kg}/\text{cm}^2$

【外部仕上】

屋根：勾配屋根＝アスファルトルーフィング・コロ
シート，天然スレート3枚葺，陸屋根＝アスファ
ルト防水，押えコンクリート，豆砂利打込み
外壁：珪酸質タイル（先積ブリック打込工法）一部
コンクリート打放しおよび珪り仕上げに撥水剤塗布
開口部：昭和鋼機(株)オーダーメイド自然発色サッ
シュ，一部型鋼グラファイト処理サッシュ，旭硝子
スーパーサンゴールド

【内部仕上げ】

玄関ホール・ロビー・第7展示室：床・巾木＝自然
石（北木島御影）円盤摺および本磨，壁＝コンクリ
ート砕り仕上げ，プラスター中塗下地塗装仕上げ，
天井＝岩綿吸音板 天井高＝2,300 4,200～13,500
展示室：床＝ビニールホモジニアスタイル，壁＝石
綿珪酸カルシウム，板下地クロス張り，塗装仕上げ

天井＝岩綿吸音板，塗装仕上げ 天井高＝3,600

3,240 4,500～6,100

事務室：床＝ビニールホモジニアスタイルおよびビ
ニールアスベストタイル，壁＝プラスター中塗下地
塗装仕上げ，天井＝岩綿吸音板塗装仕上げ，天井高
3,400

収蔵庫：床＝フローリングブロック，壁・天井＝米
杉 天井高＝3.400 館長・副館長室・応接室：＝じ
ゅうたん，壁＝突板練付け，天井＝岩綿吸音板 天
井高＝2,600

講堂：床＝置敷カーペット，一部マコレフローリン
グ，壁＝マコレ練付け，及びクロス張り，天井＝クロ
ス張り

ホール：床＝ビニールホモジニアスタイル

廊下：壁＝プラスター中塗下地塗装仕上げ

情報資料室：天井岩綿吸音板

事務室：床＝ビニールアスベストタイル，壁＝プ
ラスター中塗下地塗装仕上げ，天井＝軟質石綿板

第1・第2アトリエ：床＝ビニールアスベストタイ
ル，壁＝コンクリート打放し下地補修の上塗装仕
上げ，天井＝軟質石綿板

研修室：床＝ビニールアスベストタイル，壁＝クロ
ス張り，天井＝岩綿吸音板

和室：床＝玄晶石水磨き，タタミ，檜家甲板，壁＝
京じゅうらく塗，天井：杉板ベニヤ目透シ，竿縁天井

【昇降機設備】

荷物用エレベーター（三菱エレベーター）：制御方
式＝交流2段速度歯車式，セレクトィブコレクティ
ブ(DWA)F操作方式，規模：容量3,000kg，カゴ
内法＝ $3.000 \times 3.000 \times 3.000$ ，速度＝30m/min，戸閉
型式＝電動式2板戸上下開き

【空調設備】

空調方式：展示棟＝CAV(定風量型)＋VAV(可
変風量型)方式；県民アトリエ棟＝各室ハンドリン
グ方式，管理棟＝VAV方式，保管庫＝露点再熱制御
方式

熱源：空気熱源スクリュウ熱回収ヒートポンプ方式

【衛生設備】

給水：ポンプ圧送方式，引込み管径75mm

排水：汚水・雑排水合流方式系統（管径300），雨水
系統（管径300）別，公設本管へ放流

【電気設備】

受電方式：交流 3相3線式6,000V 50Hz，電灯幹
線＝交流 単相3線式200V/100V 50Hz，分岐支流
＝単相2線式200V/100V 50Hz，分力幹線および
分岐支流＝交流 3相3線式200V 50Hz，電話交
換方式：40回線クロスバー完全共通制御分散中継方
式，契約容量：560Kw

【防災設備】

排煙方式：自然排煙，機械排煙（第1,2,7展示室）
 消火方式：屋外・屋内消火栓，不燃性ガス消火設備
 ハロゲン1301（電気室，機械室，収蔵庫1.2）
 自家発電：ディーゼル機関直結交流発電機，定格出力100kVA

【その他の設備】

防犯設備：ITVカメラ設備，防犯警報装置，調光放送設備，火災報知設備

工期及建設経費

第1期工事（展示棟）

工期 昭和47年9月21日～昭和49年3月31日

工事費 775,967千円

本 体 工 事	425,230千円
電 気 設 備 工 事	79,663千円
空 調 設 備 工 事	166,493千円
給排水衛生設備工事	28,995千円
外 構 工 事	67,705千円
ガ ス 工 事	7,881千円

第2期工事（管理棟）

工期 昭和50年2月21日～昭和51年2月10日

工事費 453,800千円

本 体 工 事	307,500千円
電 気 設 備 工 事	30,000千円
空 調 設 備 工 事	79,000千円
給排水衛生設備工事	19,514千円
外 構 工 事	17,786千円

第3期工事（県民アトリエ）

工期 昭和54年3月22日～昭和55年2月29日

工事費 370,000千円

本 体 工 事	248,758千円
基 礎 杭 打 工 事	16,542千円
空 調 設 備 工 事	56,200千円
電 気 設 備 工 事	35,000千円
給排水衛生設備工事	13,500千円

第4期工事

工期 昭和55年12月25日～昭和56年3月24日

工事費 8,000千円

外構工事	7,800千円
植栽工事	200千円

総工事費 1,607,767千円

展 示 棟

玄関ホール	102.40	m ²	厨 房	36.00	m ²	工 作 室	31.00	m ²
クローク	91.80	m ²	従業員控室等	17.28	m ²	発 電 機 室	25.00	m ²
倉 庫 A	2.70	m ²	食 堂 ホール	61.20	m ²	電 気 室	123.20	m ²
〃 B	2.70	m ²	ロ ビ ー	335.52	m ²	ポ ン プ 室	76.80	m ²
第一展示室	437.76	m ²	第一休憩室	23.04	m ²	機 械 室	305.20	m ²
〃 二 〃	400.32	m ²	〃 二 〃	23.04	m ²	高架水槽室	11.46	m ²
〃 三 〃	469.08	m ²	〃 三 〃	23.04	m ²	E. V機械室	27.28	m ²
〃 四 〃	403.20	m ²	便 所 A	30.24	m ²	E. V廻 り	54.56	m ²
〃 五 〃	824.19	m ²	〃 B	23.76	m ²	ダクトスペース	35.68	m ²
〃 六 〃	330.58	m ²	身障者用便所	7.92	m ²	廊 下 等	123.48	m ²
〃 七 〃	566.56	m ²	コントロール室	20.16	m ²			
食 堂	119.52	m ²	フィルター室	28.92	m ²	合 計 ①	5,194.59	m ²

管 理 棟

(1階)

第2会議室	22.62	m ²
更衣室	14.83	m ²
医務室	21.18	m ²
文書庫	22.02	m ²
警備員室	43.59	m ²
第一会議室	20.15	m ²
倉庫	7.19	m ²
湯沸室	5.19	m ²
便所	24.54	m ²
宿直室	34.20	m ²
物置	9.92	m ²
用務員室	31.83	m ²
審査室・資料準備室・荷解室	520.68	m ²
消毒室	31.79	m ²
資料倉庫	124.25	m ²
荷解梱包保管室	52.67	m ²
荷扱入控室	21.94	m ²
機械室	51.74	m ²
廊下等	123.52	m ²
小計	1,183.85	m ²

(2階)

館長室	33.27	m ²
副館長室	23.42	m ²
第一応接室	14.67	m ²
第二応接室	14.55	m ²
庶務課室	112.34	m ²
会議室	43.84	m ²
学芸課室	195.32	m ²
学芸相談室	23.91	m ²
研究工作室	216.49	m ²
写真スタジオ	54.30	m ²
器材室	6.74	m ²
暗室	12.19	m ²
第一収蔵庫	184.40	m ²
〃 二 〃	42.81	m ²
E.V前室	16.39	m ²
便所	21.50	m ²
湯沸室A	3.24	m ²
〃 B	6.87	m ²
廊下等	60.94	m ²
ダクトスペース	3.56	m ²
その他	3.56	m ²
小計	1,090.75	m ²
合計②	2,274.60	m ²

県民アトリエ棟

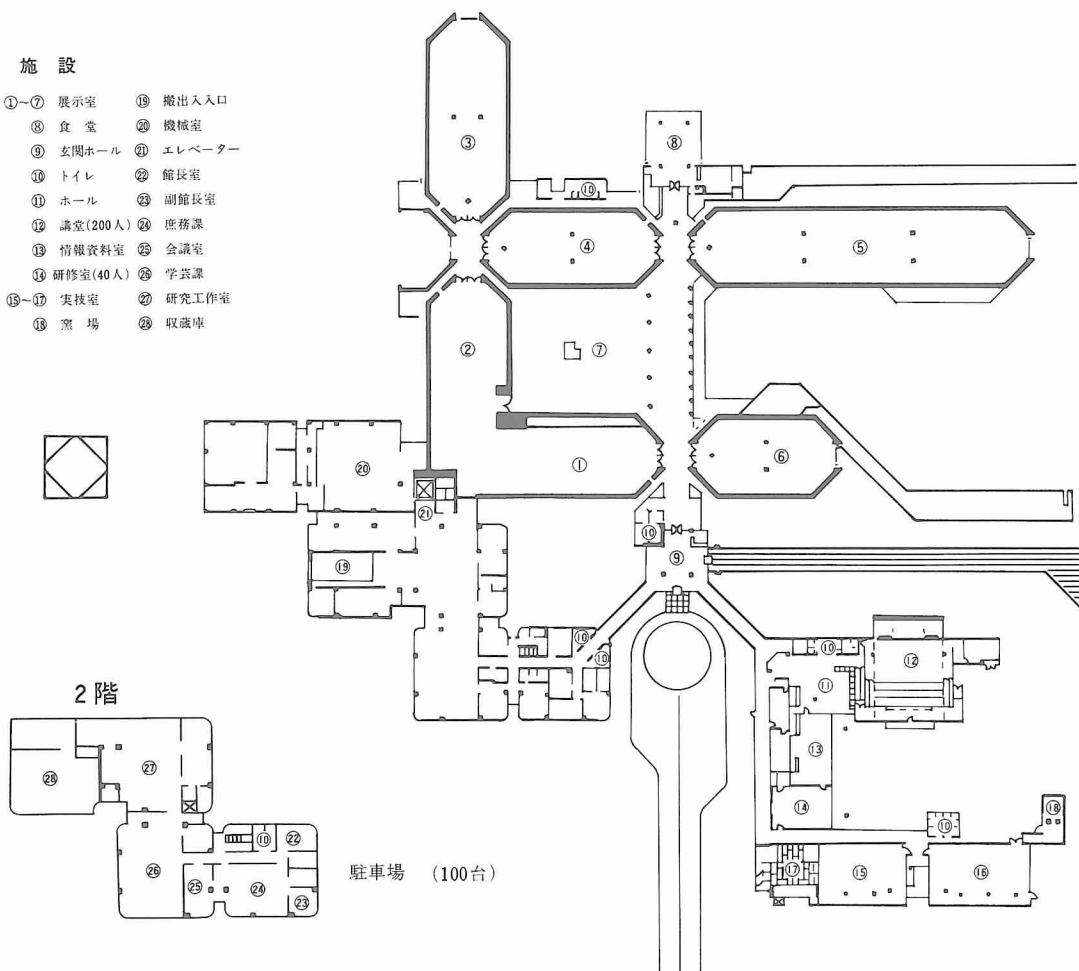
1F機械室	25.92	m ²
講堂倉庫	8.64	m ²
講堂	259.24	m ²
コントロール室	30.33	m ²
ホール側便所	29.97	m ²
情報資料室	172.77	m ²
同上倉庫	4.70	m ²
事務室	22.76	m ²
研修室	74.70	m ²
同上倉庫	4.23	m ²
第1アトリエ	155.70	m ²
第2アトリエ	184.31	m ²
第3アトリエ	95.47	m ²
アトリエ側便所	20.77	m ²
荷解室	25.65	m ²
窯場	27.17	m ²
同上倉庫	6.66	m ²
ホールその他	352.67	m ²

合計③ 1,501.66 m²

総合計 8,970.85 m²
(①+②+③)

施 設

- ①～⑦ 展示室
- ⑧ 食堂
- ⑨ 玄関ホール
- ⑩ トイレ
- ⑪ ホール
- ⑫ 講堂(200人)
- ⑬ 情報資料室
- ⑭ 研修室(40人)
- ⑮～⑰ 実技室
- ⑱ 窯場
- ⑲ 搬出入入口
- ⑳ 機械室
- ㉑ エレベーター
- ㉒ 館長室
- ㉓ 副館長室
- ㉔ 庶務課
- ㉕ 会議室
- ㉖ 学芸課
- ㉗ 研究工作室
- ㉘ 収蔵庫



事業

1 “みる”事業

常設収蔵作品展を年三期に分けて「房総ゆかりの美術家」「水彩画」「風景画」をそれぞれのテーマとして開催した。

特別展としては、「ゴヤ連作全版画展」と「フランス名画展」を開催した。

企画展としては、「今関啓司展」房総の美術家シリーズ—15—を開催したほか、「千葉県移動美術館」を八千代市と君津市において開催した。

2 “かたる”事業

「美術講演会」を2回、「美術を語る会」を5回開催したほか、「ヨーロッパの近代及び現代の芸術観」をテーマとして美術館夏季大学を2日間開催した。

3 “つくる”事業

初心者を対象とした入門講座を10種14講座、延日数65日、経験者を対象とした研修講座を5種8講座延32日開講した。

常 設 展

常設 収蔵作品展（第Ⅰ期）

《房総ゆかりの美術家》をテーマとし、日本近代美術の先駆者である浅井忠、香取秀真、津田信夫、更に現在国内外で活躍している東山魁夷、浜口陽三等を中心に、日本画・洋画、工芸(金工)・版画の各部門の作品を展覧した。

会 期 昭和60年4月2日(火)～8月18日(日) 120日間

展示点数 106点

入場者数 44,897人

出 品 目 録

作 家 名	作 品 名	作 家 名	作 品 名
洋 画		浜 口 陽 三	
浅 井 忠	フォンテンブローの森	"	う さ ぎ
堀 江 正 章	西 村 房 太 郎 像	"	し た び ら め
椿 貞 雄	八 重 子 像	"	緑 の ぶ ど う
"	秋 果 図	"	魚 と さ く ら ん ぼ
原 勝 郎	モ ン マ ル ト ル	"	て ん と う 虫
"	森	"	ポ プ ラ
石 橋 武 治	筑 波 遠 望	"	赤 い パ イ プ
浅 井 真	梅 林 D	"	く る み
"	裸 婦	"	さ く ら ん ぼ と 青 い 鉢
板 倉 鼎	金 魚	"	二 匹 の 蝶
日 本 画		"	毛 糸
石 井 林 響	浦 島 太 郎 図	星 襄 一	雪 の 中 で (K)
富 取 風 堂	群 魚	"	星 座 二 番
東 山 魁 夷	門 狗	"	風 景(A)一星 月 夜
立 石 春 美		"	赤 い 地 平 線
若 木 山 学	海 川 女 口	"	王 の 樹
渡 辺 学		"	青 い 一 列
工 芸		"	陽 (林)
香 取 秀 真	霊 獣 文 大 花 瓶	"	野 の 木 (A)
"	鳳 凰 文 様 花 瓶	深 沢 幸 雄	愛 憎
"	笑 獅 子 香 炉	"	は が ね の 華
"	菊 文 釜 炉	"	虚 空 に 乱 れ る
"	鳩 香 炉	"	飛 神
津 田 信 夫	一 點 玲 瓏 炉	"	古 い 楽 譜
"	鳳 翔 薫 炉	"	女 帝
"	子 迷 家 鴨	"	神 威 A
"	北 辺 夜 猫 子	"	凝 視 (青)
香 取 正 彦	臚 銀 玉 錯 花 瓶	"	青 い 裸 像 A
信 田 洋	伸 び ゆ く 湾 壺	"	虚 空 の 影
"	透 装 瓶 (六 文 銭)	新収蔵作品展	
"	立 姿 瓶	浅 井 忠	フ ォ ン テ ン ブ ロ ー の 夕 景
"	乳 装 銀 瓶	"	母 の 肖 像
"	金 冠 銅 瓶	"	溪 流
鈴 木 治 平	条 紋 金 彩 花 瓶	"	パ リ 公 園
版 画		"	松 梅
浜 口 陽 三	草 花	"	盗 賊
		"	欧 州 風 景

作家名	作品名
浅井 忠	洋上の夕陽
"	曳船通り
"	狂女
"	古城
"	当世風俗五十番歌合(2番)
"	"(7番)
"	"(15番)
"	"(28番)
"	"(雲水他)
"	"(ハンター他)
"	にわとり
"	欧州時代スクラップ帳
"	絵はがき
"	折本
都鳥 英喜	舟小屋
"	滞船
"	村の道
大下 藤次郎	紫陽花

作家名	作品名
大下 藤次郎	久々子湖
"	青梅
三宅 克己	小諸城址
荒谷 直之介	大島風景
"	若い裸婦たち
石井 林響	木華開耶姫
"	唐美人
"	梅花書屋
"	夜道を駆ける人
若木 山	島ノ椿
"	三篤刈る信濃の女
"	潭
時田 直善	魚紋
津田 信夫	月下妖麗
"	変貌七色
"	閑鱗上
"	水牛

常設 収蔵作品展（第Ⅱ期）

「水彩画の世界」をテーマとして、浅井忠、大下藤次郎、三宅克己、石井柏亭、赤城泰舒、中西利雄、小堀進等の作品を展覧し、日本近代洋画史の展開の上で重要な位置を占める水彩画の流れを紹介した。

会 期	昭和60年 9 月19日(木)～10月13日(日) 22日間
展示点数	49点
入場者数	22,721人

出 品 目 録

作家名	作品名
洋 画	
浅井 忠	沢入 駅
"	平壤大同江煉光亭
"	金州城壁上
"	男性裸像
"	フォンテンブローの森
"	洋上の夕陽
"	京都高等工芸学校の庭
"	奈良郊外
牧野 克次	松林景
中林 僊	冬の風景
加藤 源之助	秋の山(大和初瀬村)
長谷川 良雄	高等工芸学校西裏通り
"	晩秋
田中 善之助	聖護院の裏
大下 藤次郎	紫陽花
白滝 幾之助	伊国アシシ
"	伊国ナポリ
"	エジプト
三宅 克己	小諸城址
石井 柏亭	病児
"	晩春行楽図

作家名	作品名
石井 柏亭	舟に居る人
"	舞姫
赤城 泰舒	風景
中西 利雄	南仏風景
"	外房風景
"	人物
"	四人の女
"	曇り日の離宮と駅
不破 章	裁縫女
"	三人姉妹
"	浴衣
"	奥鬼怒の湯治場
"	麗日新宿御苑
"	風の日の海辺
小堀 進	高原
"	南欧の丘
"	雨後の山(信州)
"	逆光
荒谷 直之介	大島風景
"	白船入港(マラガ)
"	那覇の踊り子

作家名	作品名	作家名	作品名
荒谷直之助	大原女	三橋兄弟治	白いスペースに於ける直線の構成(A)
"	若い裸婦たち	"	トレド早春
三橋兄弟治	染色をする女	"	ハティバの城壁
"	作品II		

常設 収蔵作品展 (第Ⅲ期)

第1部では「風景画の世界」をテーマとして、日本画・洋画・版画の部門から風景をモチーフとした作品を展覧した。第2部では「新収蔵作品展」として、日本画・洋画・彫塑・工芸・版画の5部門の作品を展覧した。

会 期	昭和60年12月13日(金)～61年3月30日(日) 84日間 (ただし3月18日以降展示替え)
展示点数	85点
入場者数	38,191人

出 品 目 録

作家名	作品名	作家名	作品名
<風景画の世界>		小堀進	霞ヶ浦
日本画		"	花と海
田岡春徑	幽谷	山本不二夫	ハイデルベルグ風景
"	溪 九 十 九 谷	笹岡了一	秋麗の芦の湖
峰岸魏山人	九 十 九 谷	桜田精一	冬の並木道
吉岡堅二	濤	三橋兄弟治	トレド早春
東山魁夷	春秋	"	ハティバの城壁
"	波濤岩礁	松本秋美	aspettare
岩崎巴人	濤 岩 礁	溝口七生	高原の樹々
関主税	濤 門 雨 後	斎藤捷夫	海辺の光景
後藤純男	山 門 雨 後	高森登志夫	絵画
洋 画		版 画	
カミュー・コロ	フォンテンブローの風景	浜口陽三	パリの屋根
浅井忠	藁 屋 根	星 囊 一	青い一列
"	フォンテンブローの森	"	野の風景
"	奈良郊外	"	枯草の風景
松岡寿	森と小川	<新収蔵作品>	
大下藤次郎	青 々 子 湖	日本画	
"	久 々 子 湖	村松乙彦	菊 人 形粧
都鳥英喜	巴里郊外サングール	"	化粧
白滝幾之助	伊国アシシ	"	ア イ ヌ
"	海	"	空
中林僊	冬の風景	大森運夫	灯翳・爾宴
加藤源之助	秋の山(大和初瀬村)	"	時 空 往 還
石井柏亭	安 倍 川	松尾敏男	歴 程
長谷川良雄	高等工芸学校西裏通り	洋 画	
"	晩 秋	宮嶋美明	慾 望
間部時雄	田園風景	"	少女雲
安井曾太郎	熱海附近	日野耕之祐	黒 い 叢
梅原龍三郎	皇 居	小柳吉次	
原勝郎	京 橋	彫 塑	
石橋武治	白鷺のいる風景	佐藤忠良	ラ ッ ブ 帽
椿貞雄	鋸山から見た房総半島	舟越保武	婦 人 像
中西利雄	トリエル・シュール・セヌ	大 国 丈 夫	ヨ 聖 な る 佇 立
"	南 仏 風 景	堀 川 恭	

作家名	作品名
山崎 猛	木馬の詩
原 武典	水の中の太陽('81)
"	水の中の太陽('82)
久保田 俣通	さりげなく
六崎 敏光	香風
島田 勝吾	少女と鳥
山本 正道	ヴァージニア
梅原 正夫	母と子
三木 俊治	行列
金田 雄作	"Bed Room"N氏邸見取図より
青木 三四郎	憩い
酒井 良	時を刻む
松本 雄治	天母神、天を翔ける

作家名	作品名
高田 大	リラック
工芸	ス
会田 富康	青銅双鳥置物器
津田 永寿	鳥の花の詩
鈴木 治平	湿原の詩
版画	
牛 玖健治	作品 発芽
"	2 人
"	作品 発芽
"	作品 鏡
"	作品 発祥
"	ゆ う え ん ち

通年常設展示

作家名	作品名	作家名	作品名
鈴木 章	七面鳥	大須賀 力	椅子の女像
藤野 天光	銃後工場の護り	中島 幹夫	風の肖像
"	ああ青春	郡司 和男	詩人の肖像
木村 賢太郎	立像	鈴木 徹	帰雲・春
"	うごめくトルソー II	山崎 英五	地を這うものども XIV
"	うごめくトルソー VI		
"	海		
工芸			
大須賀 選	作品63—7(室内とうろう)(I, II期のみ)		

宮取風堂作品特別展示

7月2日(火)～8月18日(日)

作品名	作品名
游 鯉 (其一)	蟹 夕
游 鯉 (其二)	
朝 光	路 色
斜 陽 (夏すがた其一)	花 猿
夜 (夏すがた其二)	畔 秋
葛 西 風 景	夏 陽
厩 舎	夕 照
漁 村 の 初 夏	秋 果
秋 の 草	子 家
仔 馬	
漁 港 の 朝	
夕 顔	
洋 蘭	
花 籠	
初 秋	
花	

特 別 展

スペインの光と影

ゴヤ連作全版画展

一気まぐれ、戦争の惨禍、闘牛技、妄一

会 期 昭和60年 5月17日(金)～6月16日(日) (27日間)

展示点数 224点

入場者数 7,516人

ゴヤ(1746～1828)の芸術はフランス革命のさなかに生きた革命の芸術と呼ばれ、時代の苦難をよく反映している。特に晩年、革命による精神的な苦悩と全聾という肉体的疾患を克服してから、彼の芸術上の展開が顕著となった。彼の銅版画による四大シリーズはこの時期の制作であり、彼の人間諷刺の浸透した観察力を見る者の心に強く訴えるものがある。

本展は、この四大シリーズの作品一堂に展覧し、ゴヤの芸術について理解を深めるとともに、優れた版画を鑑賞する機会とした。

出 品 目 録

気まぐれ 80点 1797年～1798年制作、1799年初版

フランシスコ・ゴヤ・イ・ルシエンテス

婚たちはハイと承諾して最初に
来た男と婚約する

ほら、お化けが来るよ
乳 母 っ 子
類 は 友 を 呼 ぶ
誰 も 自 分 が 分 か ら な い
こ う し て も 彼 女 が 誰 か 分 か ら な い
彼 女 は 連 れ 去 ら れ た
タ ン タ ロ ス
愛 と 死 と
連 中 の 手 は ず は 整 っ た
歯 を 盗 む
か っ か し て い る
何 た る 犠 牲 か
け っ こ う な 忠 告
神 よ お 赦 し 下 さ い、そ れ が 母 親
だ っ た と は

び っ た り よ
そ う し て 彼 の 家 が 焼 け る
み ん な ひ っ か か る だ ろ う
む し り 取 ら れ て 追 い 出 さ れ



フランシスコ・ゴヤ・イ・ルシエンテス

何 という 羽 の む し り 方
可 哀 そ う な 娘 た ち
あ の 塵 埃
救 い の 道 は な い
水 瓶 を 壊 し た ば っ か り に
彼 女 た ち は も う 席 を 持 っ て い る
ど ち ら の 方 が 首 っ た け
し い っ
こ れ こ そ ま さ に 読 書 だ
ど う し て 隠 す ン だ い
彼 女 の た め に 祈 っ て い る
感 じ 易 か っ た が た め に
パ ラ テ ィ ー ノ 伯 爵 に 捧 ぐ
睡 魔 が 彼 女 た ち を 圧 倒 す る
彼 女 は 男 の 鬚 を そ る
ひ ど い 夜
弟 子 の 方 が 物 知 り な の だ ろ う か
ブ ラ ボ
一
租 父 の 代 ま で も
何 の 病 気 で 死 ぬ の だ ろ う か
あ る が ま ま の 姿 に
お 前 に は か つ げ ま い
理 性 の 眠 り は 怪 物 を 生 む
細 く 紡 ぐ
た っ ぷ り 吸 わ な き や
訓 師 匠 へ の 贈 り 物
告 げ 口 屋 さ ん
小 悪 鬼 た ち
チ ン チ ー リ ャ 鬼 ど も
お め か し っ こ

仕 立 屋 の な せ る 業
何 て 有 難 い お 説 教
恥 ず か し が り 屋 さ ん
死 ぬ ま で は
浮 き 沈 み
血 統 書
犬 め こ れ で も 喰 ら え
こ れ で も ま だ く た ば ら ぬ
修 業
彼 女 は 飛 び 去 っ た
一 体、誰 が 信 じ る だ ろ う か
何 と 勿 体 ぶ っ た 奴 ら だ
よ い ご 旅 行 を
マ マ、ど こ へ 行 く の
さ あ、あ ち ら へ 行 く よ
香 油 で 清 め る ま で 待 て
美 し き 女 教 師
そ れ 吹 け
敬 虔 な 誓 い
夜 が 明 け た ら 出 かけ よ う
お 前 た ち は 逃 れ ら れ ま い
怠 け て い る 方 が ま し だ
わ め く ン じ ゃ な い よ
わ れ わ れ を 解 き 放 し て く れ る 者
は い な い の か
閣 下 は お い で か……で は 俺 の 言
う 通 り に……お い、気 を つ け る、
さ も な い と……
か わ り 番 こ に
急 げ、み ん な 目 を さ ま す ぞ
俺 た ち は 誰 に も 見 ら れ な っ た
も う 時 間 だ



戦争の惨禍 82点 1810年～1820年制作, 1893年初版

来たるべきものへの悲しき予感
理由があろうとなかろうと
同じことだ
女たちは勇気をあたえる
やはり野獣だ
お前にはふさわしい
何と勇敢な！
いつもこうだ
嫌なのだ
これも嫌だ
その連中のためでもない
そのためにお前たちは生まれたのだ
悲しいめぐり合せ
道は険しい
もう助かる道はない
彼らはここまでむしい取る
意見が合わない
葬って後は口を噤め
もう間に合わない
治してやって、また戦場へ
同じことだろう
これどころではない
何処でも同じことだ
まだ役に立つだろう
彼らもまた……
見るにたえない
情

暴徒
当然の報いだ
戦争の惨害

これはひどい！
なぜだろう
さらに何をすべきか？
一本のナイフのために
なぜか理由もわからずに
これもまた……
これはもっとひどい
何と野蛮な
立派なお手柄！死人を相手に！
彼は何か役に立てる
炎をくぐって逃げる
すべては元の木阿彌だ
これもそうだ
私は見た
そしてこれも見た



これはもっとひどい

これは悪い
この通りに起きた
あまりにもむごい！
ある女の慈善
可哀そうなお母さん
白えんどうのおかげだ
遅かった

ほどこす手もなく、彼は死んだ
むなし い 叫び
物乞いは最低だ
墓地へ
健康な者と病める者
大声を出してはならない
茶碗一杯が何になろう？
彼らを救う者はいない
彼等は血筋が違うんだ
死の床
山積みされた死体
山積みにして墓地へ
これは何の騒ぎだ？
奇妙な信心！
これも負けず劣らずだ
何という気狂い沙汰！
虚無。事実が物語るだろう
彼らは行く道を知らない
公共善に反して
結末はこれだ
猫のパントマイム
これはもう最悪だ！
ペテン師たちのお芝居
人喰い禿鷹
綱が切れるぞ
見事な防戦だ
真理は死んだ
彼女はよみがえるだろうか
残忍な怪物！
これが真実だ

闘牛技 40点 1815年頃制作, 1816年初版

昔のスペイン人が馬に乗って原
野で牡牛を狩りする方法

馬に乗らずに牡牛を狩りするも
う一つの方法

スペインに住みついたモーロ人
は、コーランの迷信を棄てて、
この狩りと技を採用し、原野で
牡牛を槍で突く！

囲い場に入れられた別の牡牛を
カペーオするモーロ人

勇壮なモーロ人ガスールは、規
則に従って牡牛を槍で突いた最
初の男である

広場でアラビアン・マントを使
って別のカペーオをするモーロ
人

銃槍もしくはバンデリーリヤの
起源

闘牛場で牡牛の角にかけられた
モーロ人

スペインの騎士が馬をやられた
後で牡牛を殺す

カルロス五世、バリャドリッド
闘牛場で、槍で牡牛を突く

英雄エル・シッド別の牡牛を槍
で突く

槍や半月槍、バンデリーリヤ、
その他の武器で牡牛の膝を切ろ
うとする群衆

スペインの騎士、闘牛場で助手
の手を借りずに短槍で牡牛を突
く

一流の技をもつファルセスの学
生、カーバを身にまとして牡牛
をあしらう

有名なマルティンチョ、体をか
わしながらバンデリーリヤを刺
す

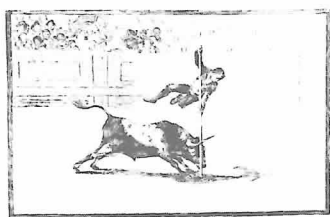
同じくマルティンチョ、マドリ
ッド闘牛場で牡牛を引き倒す

角先をボールでくるんだ牡牛を、
驢馬を盾に攻めるモーロ人たち

サラゴサ闘牛場でマルティ
ンチョの無謀な技

同じ闘牛場でマルティンチョが
見せたもう一つの狂気

マドリッド闘牛場でファニート・ア
ピニャーニが見せた敏捷さと大胆さ



マドリード闘牛場でファコート・アビニャーニが見せた敏捷さと大胆さ

マドリード闘牛場の無蓋席で起こった悲劇と、トレオーン市長の死

有名なパフエレーラが、サラゴサ闘牛場で見せた男まさりの勇気

エル・インディオと呼ばれたマリアーノ・セバリーヨス、馬上から牡牛を殺す

同じセバリーヨス、マドリード闘牛場で牡牛にまたがり、短槍で別の牡牛をかわし打つ

犬を牡牛にけしかける落馬して牡牛の下敷きになったピカドール

有名なピカドール、フェルナンド・デル・トーロは突き棒で猛牛にけしかける

勇敢なレンドーンは、マドリード闘牛場で牡牛を長槍で突きながら、その技の最中に死んだ

かわし身を見せるペペ・イーリョ

ペドロ・ロメーロ、静止した牡牛を殺す

炎のバンデリーリャ一頭の牡牛につぎつぎと倒される二組のピカドール

マドリード闘牛場におけるペペ・イーリョの悲劇的な最後

助手に助けられて短槍で牡牛を突くスペインの騎士

牡牛に突き倒された馬

牡牛に向けて放たれた犬

助手に肩車された闘牛士が長槍で牛を突く

ペペ・イーリョの死（第2の構図）

ペペ・イーリョの死（第3の構図）

二匹の驃馬に引かせた馬車に乗っての闘牛

妄 22点 1820年頃～1824年頃制作, 1864年初版

女	の	妄	陽	気	の	妄
恐	怖	の	飛	翔		法
滑	稽	の	謝	肉	祭	の
大	阿	呆	明	晰	の	妄
飛	行	の	勸			告
激	怒	の	忠			誠
結	婚	の	葬	い	の	妄
袋	詰	め	周	知	の	妄
す	べ	て	几	帳	面	の
女	を	誘	畜	生	の	妄
貧	の	妄	馬	鹿	者	た
					ち	の
						妄



恐怖の妄

参考展示「版画の技法」（協力・坂戸武雄）

1. 木版画, 銅版画（ビュラン, ドライポイント, エッチング, アクワティント）の参考作品及び解説

2. 凹版用版画道具

- ・ビュラン(4本), スコーパー, ドライポイント・ニードル(2本), ロッカー, スクレパー, バニッシャー, ルーレット
- ・液体グラウンド, 固形グラウンド, 松脂
- ・銅板(ビュラン彫り), ドライポイント, アクワティント及び複合テクニックを使用した原版)
- ・銅版用プレス機(1台)

—ロココからエコール・ド・パリまで—

フランス名画展

会 期 昭和60年 8月23日(金)～9月16日(月) (22日間)

展示点数 99点

入場者数 15,571人

近代絵画運動は、フランスの地を舞台に展開し、今日の絵画を形成する基盤を築いてきた。

本展覧会では、18世紀のロココから20世紀前半のエコール・ド・パリまでのフランス絵画の流れをたどりながら、代表的作家の作品をわかりやすく親しみやすい形で展覧し、個人はもとより家族づれで、優れた絵画を鑑賞する機会を提供した。

Antoine Watteau du Rosa et l'Art



特別展 ロココからエコール・ド・パリまで

フランス名画展

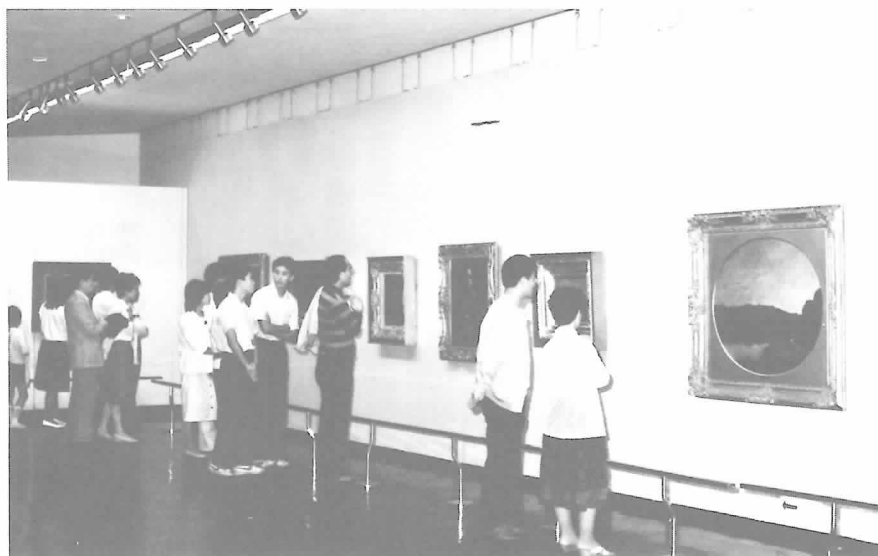
1985年8月23日金～9月16日月 千葉県立美術館

出品目録

作家名	作品名	作家名	作品名
ワ ト ー	戦 場 か ら の 帰 還	モ	ネ
ブ ー シ エ	農 家 の 庭		
フラゴナール	さくらんぼをかかえる子供		
ダヴィッド	アンドロマケ(習作)	ド	ガ
ア ン グ ル	天 使(ルイ13世の誓い)		
デュラン	裸 婦	ピ サ ロ	水 浴 の 女 た ち
ブーグロー	少 女	シ ス レ ー	シュレーヌのセーヌ河
カバネル	狩りの女神ダイアナ	ルノワール	読 書 を す る 少 女
ローランス	ペートーヴェン讃		風 景
コ ラ ン	静 寂(樹下の裸婦)	ス ー ラ	河 景
ドラクロア	動物の記述をとる	シニャック	セ ー ヌ 河
	アリストテレス	セザンヌ	静 物
	マルセルスの兵士に殺される		水 浴 者(大水浴)
	アリストテレス	ゴーギャン	ブルターニュの子供
			タヒチの女の横顔
	海 景		かわしき大地
モンティセリ	庭園の婦人たち(雅宴)		(版画集<ノアノア>)
ド ー ミ エ	ユリシーズの帰還		川辺の女たち
	(シリーズ<古代史>)		(版画集<ノアノア>)
	最 後 の 閣 議		静 物(りんご)
	鍛 冶 屋	ゴ ッ ホ	ディヴァン・ジャポネ
ク ー ル ベ	ま ど ろ む 裸 婦	ロートレック	
	雪 の 中 の 小 鹿		
	ル ー ゼ 夫 人		ジャヌ・アヴリル(版画集
	ポーリーヌ・V・オノの肖像		<カフエ・コンセール>)
	朝風に船を曳く漁夫たち		アリストイド・ブリュアン
コ ロ ー	フォンテーヌブローの風景		(版画集<カフエ・コンセール>)
	ヴィル・ダヴレーの池	モ ロ ー	サン・セバスチャンと天使
ルソー(テオドール)	フォンテーヌブローの森	ル ド ン	眼 を と じ て
	風 景		ア レ ゴ リ ー(赤い木)
		ボ ナ ー ル	赤 い 背 景 の 裸 婦
デュプレ	沼 辺 の 牛		鐘 楼
トロワイヨン	帰 途(水浴する牛)	ド ニ	なでしこを持つ若い女
ジャック	羊 飼 い の い る 風 景		ブルターニュにて(ペンマルク)
ドービニー	アンドルシィ付近の風景		語 り 手
マ ネ	花 の 中 の 子 供	セ リ ュ ジ エ	鏡 の 前 の 青 い ド レ ス
	ジヴェルニーの日のあたる	マ チ ス	サーカス(版画集<JAZZ>)
モ ネ	積み藁		

作家名	作品名
ル オ ー	神よ、われを憐みたまえ、おん身の大なる慈悲によって (版画集<ミゼレーレ>)
〃	愛することのいかに甘美しき (版画集<ミゼレーレ>)
〃	お前たち、互いに愛し合えよ (版画集<ミゼレーレ>)
マ ル ケ	サーカスの少女
ヴ ラ マ ン ク	アルジェの港
ド ラ ン	ノルマンディーの教会
デュ フィ	マルティエグの風景
〃	田園をゆく汽車
ブ ラ ッ ク	モーツァルトに捧ぐ
〃	海の家と小舟
ピ カ ソ	鳥
〃	女の顔
〃	コップのあるコンポジション
〃	帽子を被る女の胸像
〃	眠る裸像
レ ジ ャ	コンボジション
〃	青い花瓶

作家名	作品名
レ ジ ャ	アコーディオン弾き
ヴィ ヨ ン	立体派風の小品
〃	騎士
ド ロー ネ ー	空中からの塔のながめ
〃	パリの橋とノートルダム寺院
ローランサン	ヴァランチーヌ
〃	少女
ルソー(アンリ)	フリュマンヌ・ビッシュの肖像
ヴァラドン	椅子の上の花束
ユトリロ	サントウーアンの通り
〃	グロスレーの教会
モジリアニ	モーリス・ポタンの肖像
〃	婦人像
キスリング	オランダの娘
〃	カトレア
パスキン	眠る裸女
シャガール	ベンチに掛ける音楽家
〃	春と夏の間
藤田嗣治	座する婦人
〃	二人裸婦



会場風景

企 画 展

房総の美術家シリーズ—15—

今 関 啓 司 展

会 期 昭和60年9月19日(木)～10月13日(日) (22日間)

展示点数 78点 他関係資料17件

入場者数 22,721人

今関啓司(明治26～昭和21)は、長生郡長南町出身で、個性派の時代と呼ばれた大正期の洋画壇にあって、東洋的洋画をめざした院展洋画部と春陽会を主な舞台として活躍した。

大正期の自由教育に洋画家山本鼎らともかかわり、昭和に入ると文部省の国定教科書「カズノホン」の挿絵を描いたりもしている。

この展覧会では、油彩画及び水墨画、デッサンのほか関係資料を展覧して、今関啓司の人と芸術を紹介し、その画業を顕彰した。

千葉県立美術館
〒270-8555 千葉県千葉市中央区
1999年10月13日



今関啓司展
房総の美術家シリーズ15

出 品 目 録

作 品 品	制 作 年	作 品 名	制 作 年
油彩画		初 庭 一 隅 秋 意	1944 (昭19)
牧 場	1920 (大9)	椿	" (")
水 辺 初 夏	1923 (" 11)	郊 外 夏 景	" (")
春 雪	1925 (" 14)	山 麓 の 小 村	
水 村 春 景	1928 (昭3)	少 年 の 像	
郊 外 秋 畑	" (")	水墨画	
南 伊 豆 の 山	1929 (" 4)	秋	景 1917 (大6)
中 津 溪 流	1930 (" 5)	水	郷 1918 (大7)
漁 村 の 夏	1932 (" 7)	水	郷 1925～1926 (大正末～昭和初)
太 東 海 岸 図	" (" 7)	鐘 尙 図	1929 (昭4)
夏 風 景	1933 (" 8)	青 風 閑 有	1930 (昭5)
春 雨 日	1934 (" 9)	山 川 新 緑	1936 (" 11)
山 海 日	" (")	帰 帆 之 図	1937 (" 12)
伊 豆 の 春	1937 (" 12)	山 海 初 夏 図	1938 (" 13)
六 月 の 伊 豆 子 浦	1938 (" 13)	白 牡 丹 之 図	1940 (" 15)
富 士 を 見 る	1940 (" 15)	息 栖 遊 図	1940～1941頃 (昭15～16頃)
袋 田 の 滝	" (")	猿 橋 遊 図	1941 (昭16)
山 と 海	1941 (" 16)	淡 紅 牡 丹	1942 (" 17)
断 岸 と 海	" (")	晚 秋 意 小 菊 と 干 蝶	" (")
印 旛 沼	" (")	山 中 春 来	" (")
刈 田	" (")	故 山 之 秋	1953 (" 18)
牡 丹	1942 (昭17)	故 山 之 図	1943～1944頃 (昭18～19頃)
山 中 早 春	" (")	山 村 早 春 色	1944 (昭19)
晚 秋 果 花	" (")	冬 山 暮 色	" (")
牡 丹	" (")	山 水 図	
浅 春 山 路	1943 (" 18)		
春 来 山 田	" (")		
対 岸 の 農 家	1944 (" 19)		
山 村 春	" (")		

作 品 名	製 作 年
牡丹童	
下遊 (浅春)	
中無一物図	
山水図	
青蔭の馬図	
洞爺の水図	
山夏の庭	
素描	
ものの言わぬ野夫	1952 (大14)
八瀬川瀬	1927 (昭2)
牛	
牛存りて女もの言はず	
太東岬	1941 (昭16)
上総の山中	1943 (〃18)
川釣りの図	
山村暮色	
春閑村	
一松夕	
山国冬	
沼畔	

作 品 名	制 作 年
鴨	
土茂原	
初冬	
蝸牛蛙	
(関係作品及び資料)	
短 路 ノ 一 踊 (筆)	1920 (大9)
今 関 啓 司 作 品 集 (画帖)	
団 扇 絵 (なす)	
〃 (朝顔)	
〃 (山百合)	
皿 絵	1935 (昭10)
辞 世 の 句 (一)	1946 (〃11)
〃 (二)	〃 (〃)
山国からの便り (水墨書簡)	
自 由 を 望 め (書)	
国定教書カズノホン(一)~(四)	1941 (昭16)
同 上 下 絵 類 (一括)	
同 上 ゲ ラ (〃)	
カズノホンの為の スケッチブック (一冊)	
今 関 啓 司 関 係 写 真 (18葉)	
日 記 (一括)	
今 関 啓 司 使 用 落 款 (14顆)	



会場の一部



第9回 千葉県移動美術館

会 場 ①八千代市文化センター
②君津市役所5階大ホール

会 期 ①昭和60年9月11日(水)～9月23日(月) (13日間)
②昭和60年9月26日(木)～10月15日(火) (14日間)

展示点数 ①48点 ②48点

入場者数 ①2,671人 ②1,455人

館所蔵作品の移動展覧を行い、優れた美術作品を身近かに鑑賞できる機会を提供した。



出 品 目 録

作 家 名	作 品 名	作 家 名	作 品 名
日本画		星 襄 一	青 い 一 列
島 多 訥 郎	秋 趣	〃	王 の 樹
立 石 春 美	狗	〃	枝 繁 る (赤)
秋 葉 長 生	西 の 京	〃	陽 (林)
渡 辺 学	川 口	深 沢 幸 雄	影 (メヒコ) A
松 尾 敏 男	原 野		掌 の 中 の 影
洋 画		池 田 満寿夫	Something I
浅 井 忠	農 婦	〃	シンデレラの広告
都 島 英 喜	巴里郊外サンクル	彫 刻	
石 井 柏 亭	信 州 風 景	大 川 逞 一	聖 観 音
霜 鳥 之 彦	縁 の ス ウ ェ ー タ ー	大 須 賀 力	倚 る
黒 田 重太郎	女 と 小 犬	神 野 義 衛	呻
安 井 曾太郎	熱 海 附 近	工 芸	
梅 原 龍三郎	竹 窓 読 書 図	香 取 秀 真	鳳 凰 文 様 花 瓶
田 中 善之助	パ リ の 女	〃	鳩 香 炉
原 勝 郎	京 橋	津 田 信 夫	月 下 妖 麗
鶴 田 吾 郎	朝 日 連 峰	〃	子 迷 家 鴨
大久保 作次郎	丘 上 の 鐘 楼	宮 之 原 謙	象 嵌 磁 鉢
椿 貞 雄	鴨 図	土 肥 刀 泉	釉 彩 両 耳 花 瓶
中 西 利 雄	トリエール・シュール・セヌ	香 取 正 彦	朧 銀 玉 錯 花 瓶
不 破 章	二 女	信 田 洋	装 瓶 (楼)
小 堀 進	花 と 海	藤 田 喬 平	飾 篋 朱 雀
笹 岡 了 一	秋 麗 芦 の 湖	鈴 木 治 平	条 紋 金 彩 花 瓶
版 画		書	
浜 口 陽 三	う い き ょ う	浅 見 喜 舟	ト 居
〃	ピーマンのある静物	大 石 隆 子	待 君
星 襄 一	夜 明 け	鈴 木 方 鶴	万 昌

県芸術祭

第37回 千葉県美術展覧会

会 期 昭和60年10月19日(土)～11月10日(日)
 展示点数 2,102点
 入場者数 25,126人
 主 催 千葉県美術会等

本県の美術家の作品を広く紹介するとともに、県民の美意識を高め、郷土美術文化の振興と情操の純化に資することを目的に開催し、日本画・洋画・彫刻・工芸・書道の各分野の作品を展示した。

部門	区分	会員点数	公募点数	入選点数	展示点数	新入選
日本画		90(81)	207(205)	187(172)	277(253)	36(9)
洋 画		178(182) (うち選作1)	642(679)	409(405)	587(587)	101(80)
彫 刻		57(61)	39(30)	36(26)	93(87)	12(11)
工 芸		63(64)	148(159)	135(127)	198(191)	27(45)
書 道		193(183) (うち選作1)	969(981)	754(763)	947(946)	135(148)
計		581(571)	2,005(2054)	1,521(1493)	2,102(2064)	311(293)

() 内は36回展

美術を語る会

10月27日午後1時～2時 美術館講堂
 「絵画の真実性について」
 渡辺 学

昭和60年度 千葉県高等学校総合芸術祭

美術工芸書道作品展

会 期 昭和60年11月13日(木)～11月24日(日)
 入場者数 5,190人
 主 催 千葉県高等学校総合芸術祭実行委員会等

千葉県下の高等学校における美術、工芸、書道の授業及び部活動で制作した作品を広く紹介し、生徒の教材及び教師の指導・研究材料として役立てるとともに、一般県民に対して、現在の千葉県高等学校美術・工芸・書道教育についての理解と認識を深めることを目的として開催した。

参加状況

部 門	書 道	美術・工芸	計
生 徒	133校	110校	243校
教 員	126校	24校	150校
計	259校	134校	393校

展示点数 1,718点



千葉県高等学校総合芸術祭



第32回 千葉県勤労者美術展

会 期 昭和60年9月25日(水)～9月29日(日)

展示点数 202点

入場者数 1,656人

主 催 千葉県労働者福祉協議会等

勤労者が余暇を利用して創作した美術品（洋画・書道・写真）を発表する場を提供することにより、勤労者の教養を高め、文化の向上を図ることを目的とした。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数	会 員 数
145	202	145	202	202	0

第35回千葉デザイン展

会 期 昭和60年 9 月25日(水)～ 9 月29日(日)

展示点数 73点

入場者数 1,749 人

主 催 千葉商業美術協會等

グラフィックデザイン作品を公募し展示することにより、県内デザインの質的レベルアップを図るとともに、デザイン志向者の育成に努めた。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数	会 員 数
102	106	35	38	73	13



第8回 千葉県写真展

会 期 昭和60年9月18日(水)～9月29日(日)

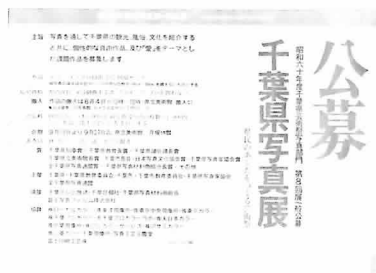
展示点数 128点

入場者数 3,432人

主 催 千葉県写真家協会・全千葉県写真連盟等

写真を通じて、本県の文化向上に資することを目的に、広く県民から作品を公募し、本県の観光、風俗、文化を紹介した。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数	会 員 数
211	376	84	100	128	25



団 体 展

展 覧 会 名	会 期	作 品 種 別	展示点数
第11回 武蔵野美術大学校友会 千葉県支部展	60.4.9～4.14	油彩画・水彩画・日本画・陶芸	72
第22回 全日本総合書道大覧会	60.4.16～4.21	書	1,490
第5回 千葉美術工芸展	60.4.16～4.29	工 芸	86
千葉等 迦 展	60.4.23～4.29	絵 画	57
第11回 歩 会 彫 刻 展	60.4.23～5.6	彫 刻	39
第9回 墨 の 県 展	60.5.1～5.6	水 墨 画	302
第12回 千葉新協展	60.5.1～5.6	水彩画・油彩画・写真	63
第30回 二科会千葉支部展	60.5.8～5.12	油 彩 画 ・ 水 彩 画	148
二 紀 会 千 葉 県 支 部 展	60.5.8～5.12	油 彩 画 ・ 彫 刻	44
第16回 表 美 展	60.5.14～5.19	表 装 ・ 額 装 ・ 屏 風	113
千葉市アマチュア美術展覧会	60.5.14～5.19	絵画・書・写真・彫塑・工芸・手芸	446
デンマーク手作りじゅうたん展示会	60.5.21～5.26	じゅうたん・タピストリー	47
富 士 美 術 会 展	60.5.28～6.2	油 彩 画 ・ 水 彩 画	128
第12回 千 虹 会 日 本 画 展	60.5.28～6.2	日 本 画	38
第8回 千 葉 一 陽 展	60.6.4～6.9	洋 画	68
第11回 貌 展	60.6.4～6.9	絵 画 ・ 写 真 ・ 工 芸	60
第10回 関 東 全 展	60.6.11～6.16	絵 画	173
第32回 千葉県書道協会展	60.6.18～6.23	書	288

展 覧 会 名	会 期	作 品 種 別	展示点数
日 本 画 秀 峰 会 展	60.6.18～6.30	日 本 画	62
第9回 精 鋭 展	60.6.25～7.7	油 彩 画 ・ 彫 塑	72
第3回 明日を拓く教育美術展	60.7.2～7.7	油 彩 画 ・ 水 彩 画 ・ 工 作	2,500
第1回 日本水彩画会千葉県支部展	60.7.9～7.14	水 彩 画	54
第2回 レリーフ・反レリーフ展	60.7.9～7.21	立 体	46
第57回 習 美 会 初 夏 展	60.7.16～7.21	日 本 画 ・ 洋 画 ・ 水 墨 画	165
第5回 日 本 春 秋 書 院 千 葉 県 書 道 連 盟 展	60.7.16～7.21	書	106
第17回 千葉県水墨画同好会連合会展	60.7.23～8.4	水 墨 画	575
千 葉 中 美 展	60.7.30～8.4	日 本 画 ・ 洋 画 ・ 水 彩 画 ・ 版 画	57
第14回 写 真 千 葉 県 展	60.8.6～8.18	写 真	211
第5回 千葉サンケイ現代洋画展	60.8.6～8.18	洋 画 ・ 水 彩 画 ・ 版 画	233
第11回 子どもと教師の作品展	60.8.20～8.25	油 彩 画 ・ 水 彩 画 ・ 版 画 ・ 工 作 ・ デザイン	484
第13回 千葉市教職員美術展覧会	60.8.20～8.25	洋 画 ・ 陶 芸 ・ 立 体	150
尽 墨 会 書 作 展	60.8.20～8.25	書	40
第18回 千葉県高等学校合同写真展	60.8.20～8.25	写 真	316
第31回 静 雅 書 道 会 小 中 学 部 千 葉 地 区 展	60.8.27～9.1	書	207
第6回 龍 峽 書 道 会 千 葉 県 人 展	60.8.27～9.1	書	700
第4回 刻 字 千 葉 展	60.8.27～9.1	刻 字	102

展 覧 会 名	会 期	作 品 種 別	展示点数
第15回 い て ふ 会 彫 刻 展	60. 8 .27～ 9 . 1	彫 刻	49
第25回 白 扇 書 道 会 展	60. 9 . 3 ～ 9 . 8	書	4,513
中 国 名 画 展	60. 9 .10～ 9 .16	絵 画	90
第17回 フ ァ ン シ ー 洋 画 展	60. 9 .18～ 9 .23	油 彩 画	102
第15回 新 構 造 千 葉 支 部 展	60. 9 .18～ 9 .23	絵 画 ・ 工 芸 ・ 写 真	108
第23回 新世紀美術協会千葉支部展	60. 9 .18～ 9 .23	油 彩 画 ・ 水 彩 画	71
日本書道学会千葉県連合会書道展	60. 9 .25～ 9 .29	書	251
昭和60年度第28回 千 葉 市 小 中 養護学校児童生徒作品総合展覧会	60.10. 1 ～10. 6	図 工 ・ 理 科 ・ 家 庭 科 作 品	7,600
第 3 回 日 中 友 好 書 道 展 覧 会	60.10. 8 ～10.13	書	1,371
第12回 文 化 書 道 千 葉 県 連 合 会 公 募 展 覧 会	60.10. 8 ～10.13	書 ・ 刻 字 ・ 篆 刻 ・ 南 画	866
第 5 回 二 科 会 写 真 部 千 葉 支 部 展	60.10. 8 ～10.13	写 真	126
第30回 こ ど も 県 展	60.11.26～12. 8	絵 画	9,668
第 8 回 千 葉 展	60.12.10～12.22	絵 画 ・ 彫 刻	142
第 1 回 千 葉 日 韓 親 善 美 術 交 流 展	61. 1 . 7 ～ 1 .12	絵 画	41
第22回 登 龍 社 宮 坂 会 書 初 展	61. 1 . 7 ～ 1 .12	書	485
第15回 千 葉 県 大 学 美 術 連 盟 展	61. 1 . 7 ～ 1 .12	絵 画	165
第 3 回 明 る い 社 会 づ く り ポスターコンクール展覧会	61. 1 .14～ 1 .19	ポ ス タ ー	500
・ ・ は れ 展	61. 1 .14～ 1 .26	絵 画 ・ 立 体	45

展 覧 会 名	会 期	作 品 種 別	展示点数
第3回 千葉県医師会美術展	61.1.14～1.26	絵画・工芸・書・写真	119
第13回 現代書道50人展・現代書壇代表名作展・千葉書壇秀抜展・千葉書壇新進展	61.1.28～2.2	書	360
千葉盲学校陶芸展	61.1.28～2.2	陶 芸	90
昭和60年度千葉大学教育学部美術科卒業制作展	61.2.4～2.9	絵 画	53
第20回 千葉大学学生書道展	61.2.4～2.9	書	136
第38回 千葉県小中高校書初展覧会	61.2.4～2.9	書	890
第10回 葉美会展覧会	61.2.4～2.16	洋画・日本画・版画・写真	86
子ども造型展	61.2.11～2.16	絵 画 ・ 工 作	524
親子絵画展	61.2.11～2.16	水彩画・油彩画・金属レリーフ	174
第11回 千葉県民写真展	61.2.11～2.23	写 真	278
第9回 唱和会書展	61.2.18～2.23	書	52
幕張北高校書道コース卒業制作展	61.2.18～2.23	書	100
群 鷗 書 人 展	61.2.25～3.2	書	73
書 星 選 抜 展	61.2.25～3.2	書	243
和洋女子大学卒業展（雁鴻会書道展）	61.2.25～3.2	書	45
秋 耕 会 千 葉 支 部 展	61.2.25～3.2	絵 画	80
昭和60年度第17回 千葉市民美術展覧会	61.3.25～3.30	日本画・洋画・彫塑・工芸・書・写真・グラフィックデザイン	1,161
第33回 書 星 教 育 部 展	61.3.25～3.30	書	1,306

教育・普及

美術講演会

(1) ゴヤ — 版画の世界 —

講師 版画家 牛玖健治
期 日 昭和60年 5 月26 日(日)
参加者 86 人

まずゴヤとの出会いについて、自己の芸術観を交えながら、率直にその印象を述べることから始められた。初めての出会いは、小さい頃、本に「裸のマハ」が載っていた。思わず目をそらして次のページを見てしまったが、ずいぶん心がひかれた。この印象は強烈で、学生時代に喫茶店で「マハ」によく似た女性を見かけ、通ったこともあった。その後、ゴヤとは余りかかわりがなかったが、気になっていた。神田の古本屋で、ゴヤの版画を買い、エッチングの魅力にひかれた。作品自体の美しさもいいが、テーマの裏に隠れた意識、思想に興味がわいてくる。

作品にそのような奥深いものがあれば、真の芸術作品と言えるのではないか。ゴヤの版画に使われているテクニックは頭から離れない。

優れた作品といつも接していたいという気持ちから、画廊を開いた時期があった。実物をぜひ見てもらいたい。本物の芸術品を家庭に置いて、それぞれの感じ方で鑑賞することは大変有効である。芸術を真に理解でき、その見方を各自の生き方の中で活用するならば多くの問題は解決できるだろう。

ゴヤは、ピカソ・ミロ、その他の作家に強い影響を及ぼしている。現代の巨匠達の作品を考えると、ゴヤの存在は、多大なものである、と結ばれた。

このあと、投影されるスライドに沿いながら、画商その後の版画家としての体験・印象を交えながら、ゴヤの芸術における版画について概観された。



(2) ロココからエコール・ド・パリまで

講師 洋画家 松沢茂雄
期 日 昭和60年 9 月 1 日(日)
参加者 153 人



美術評論家でも美術史家でもないで学問的なことはわからないが、洋画家として、制作者としての主観を交えながら、フランス美術の流れを一緒にとらえてゆきたいと前置きされて、用意されたスライドに沿いながら綿密な解説を始められた。

優美で流麗な色彩のロココ美術、普遍的な美の追求をした古典派、流動的な筆致と動感に満ちた劇的構図のロマン派、現実の事象重視のリアリズム、光による表情の変化を追求した印象派、鮮明な色彩と大胆な筆づかいのフォーヴィスム、更にキュービズム、エコール・ド・パリ

りなどについて、多くの作品例をあげながら、丁寧にわかりやすく話された。

特に、黒田清輝、藤田嗣治など、日本の画家達との関係についてもエピソードを交えながら講演され、洋画家としてとらえたヨーロッパ美術史の一面を興味深く概説された。

終りに18世紀を王侯貴族の時代、19世紀をブルジョアジーの時代、20世紀を庶民の時代と呼べると思うが、これらの時代を総合的にとらえるとき、フランス美術の実体にせまることができるのではないかと、そして、現代美術が行き詰っているなかで、フランス美術は何らかの示唆を与えてくれるのではないかと、まとめられた。

なお、本講演会の開催に当たって、房総芸術文化協会の協力を得た。

美術を語る会

第1回 昭和60年6月8日(土)

話題提供者 版画家 鶴岡 洋

テーマ ゴヤと銅版画の技法

参加者 38人

特別展「ゴヤ連作全版画展」の開催にあわせ、ゴヤの版画について、まず、当時のスペイン社会の状況、ゴヤの生涯などを、用意された図表を使い、わかりやすく解説された。そのあと、版画家としての体験を交えながら、ゴヤの銅版画について、技法、刷り方に言及された。銅版画の制作過程については、まだあまり一般的でないためか、参加者からも多くの質問が出された。

第2回 昭和60年9月14日(土)

話題提供者 洋画家 花香利治

テーマ 印象派の画家たち

参加者 57人

特別展「フランス名画展」をより深く鑑賞していただくため開催した。多岐にわたるフランス美術史の流れをわかりやすく表にあらわし、ロココからエコール・ド・パリに至る経過を概説された。そして、各派についての解説もスライドを使いながら、作品に沿って行われた。日ごろ身近かなフランス美術のためか、参加者からも多くの意見が発表され、充実した会となった。

第3回 昭和60年9月28日(土)

話題提供者 洋画家 今関一馬、今関鷲人

テーマ 今関啓司一人と芸術

参加者 80人

企画展「今関啓司展」に関連して、今関一馬、今関鷲人両氏を話題提供者に招き、芸術家・父親としての今関啓司像について語っていただいた。近親者によって語られる芸術家の生涯は、興味深いものであり、作品を理解する上でも大きな助けになった。県外からも

数多くの参加者があり、なごやかな雰囲気の中に今関啓司のひとと芸術について語り合いが行われた。

第4回 昭和60年11月30日(土)

話題提供者 千葉県立美術館学芸課

副主査 高村照夫

テーマ 子供の創造活動

参加者 30人

開催中の児童画関係団体展に関連して、子供と造形について、小学校の教科書から作成した資料やスライドなどを使い、実例に沿って解説し、話題を提供した。参加者の中には、教師志望の者もあり、熱心な質疑が行われた。また家族そろっての参加者もみられ、子供の造形について、真剣に話し合いが行われた。

第5回 昭和61年2月1日(土)

話題提供者 東京芸術大学美術学部

講師 村田哲朗

テーマ 浅井忠と従征画稿

参加者 36人

本館が収集、研究等の面で重点的に取り組んでいる浅井忠の日清戦争従軍記「従征画稿」を話題にして、浅井忠の戦争観、交友関係、画業等について語り合った。参加者の中には浅井忠の研究者も多かった。



第9回 美術館夏季大学

期 日 昭和60年7月26日(金)・27日(土)

参 加 者 145人

テ ー マ ヨーロッパの近代及び現代の芸術観

内容及び講師

日 時	内 容	講 師	日 時	内 容	講 師
7月26日(金)	午前 美術館—新しいミュージアムをめざして—	長谷川栄 (東京国立博物館 展示調整室長兼普及室長)	7月27日(土)	午前 ヨーロッパの造形—具象と抽象—	三木多聞 (美術評論家)
	1. ヨーロッパの美術館 2. ルーブルの新しいスタート 3. ポンピドー国立芸術文化センター 4. オルセとラ・ビレットの未来計画など			1. 造形芸術の不変性と可変性 2. 具象表現の変貌 3. 抽象美術の多様化	
7月26日(金)	午後 形と心—新具象の立場から—	日野耕之祐 (サンケイ新聞社美術担当)	7月27日(土)	午後 近代美術におけるフランスの日本と	富山秀男 (東京国立近代美術館次長)
	1. いま考える具象とはなにか 2. まず色と形(デッサン)について 3. 形とデッサンについて 4. 日本の風土性と美意識について			1. 18世紀以後のフランス絵画史 2. 19世紀における東西美術の接触 3. 20世紀におけるフランス絵画と日本	



実 技 講 座

(1) 日本画入門講座

期 日 昭和60年 5月30日(木)・31(金)・6月6日(木)・7日(金)・7月3日(木)・4日(木)・5日(金) 7日間

講 師 県美術会理事 宮沢一雅

受講者数 33人

内 容 花、くだもの、人物等を描き、用具、材料の取り扱い等、日本画の基礎的な技法について学習した。

(2) 日本画研修講座

期 日 昭和60年11月30日(土)・12月1日(日)・7日(土)・8日(日)・13日(金)・14日(土)・15日(日) 7日間

講 師 県美術会理事 松原道男

受講者数 23人

内 容 日本画入門講座を終了した者、又は同程度の者を対象にして、静物や各自の持参したスケッチ等により、技術面に重点を置いての学習を進めた。

(3) デッサン入門講座

期 日 第1期 7月24日(木)・25日(木) 2日間

第2期 8月8日(木)・9日(金) 2日間

第3期 9月18日(木)・19日(木) 2日間

講 師 第1期 県美術会理事 羽生智樹

第2期 千葉大学教授 戸田健夫

第3期 県美術会理事 五十嵐光昭

受講者数 第1期 36人

第2期 40人

第3期 37人

内 容 人物、静物、石膏等のデッサンをし、形のとり方、明暗、立体感、動き、質感、空間感など、デッサンの基本的な技法について学習した。

(4) 洋画入門講座

期 日 第1期 6月15日(土)・16日(日)・22日(土)・23日(日)・29日(土)・30日(日) 6日間

第2期 8月24日(土)・25日(日)・9月7日(土)・8日(日)・28日(土)・29日(日) 6日間

第3期 11月6日(木)・7日(木)・13日(木)・14日(木)・21日(木)・22日(金) 6日間

講 師 第1期 千葉大学教授 太田洋三

第2期 県立船橋高校教諭 根岸茂行

第3期 県美術会理事 渡辺晋

受講者数 第1期 36人

第2期 38人

第3期 41人

内 容 第1期は風景、静物、コスチューム、第2期は裸婦、第3期はコスチュームなどを題材にして、油彩の制作を通し、洋画の基礎的な技法等について学習した。

(5) 洋画研修講座

期 日 第1期 6月4日(火)・5日(水)・11日(火)・12日(水) 4日間

第2期 9月14日(土)・15日(日)・21日(土)・23日(日) 4日間

第3期 10月26日(土)・27日(日)・11月2日(土)・3日(日) 4日間

講 師 第1期 県美術会常任理事 篠崎輝夫

第2期 県美術会理事 高橋規矩治郎

第3期 県美術会常任理事 天野三郎

受講者数 第1期 39人

第2期 34人

第3期 32人

内 容 洋画入門講座の修了者又は同程度の者を対象にして、第1、第2期は裸婦、第3期は静物を題材とし、より幅広い表現力を修得するための講習を行った。

(6) 版画入門講座

期 日 昭和60年8月1日(木)・2日(金)・3日(土)・4日(日)・6日(火)・7日(水)・8日(木) 7日間

講 師 国画会会員 平野正房

受講者数 23人

内 容 銅版画の制作を通して、材料や用具、エッチング、ドライポイントなどの各技法、刷り方法等、基礎的な内容を学習した。

(7) 彫塑入門講座

期 日 昭和60年9月3日(火)・4日(水)・5日(木)・6日(金)・10日(火)・11日(水)・12日(木) 7日間

講 師 県美術会理事 久保浩

受講者数 16人

内 容 人物の頭部制作を通して、粘土の肉付けから石膏取り等、彫塑の基礎的な内容を学習した。

(8) 陶芸入門講座

期 日 昭和60年6月25日(火)・26日(水)・27日(木)・7月16日(火)・23日(火) 5日間

講 師 県美術会会員 清野一郎

受講者数 17人

内 容 カップ、さら、茶わん等の制作を通して手びねりの技法、釉薬の原料と発色など、陶芸の基礎について学習した。

(9) 陶芸研修講座

期 日 昭和60年9月25日(水)・26日(木)・10月22日(火)・29日(火)・30日(水)・11月19日(火) 6日間

講 師 県美術会常任理事 神谷紀雄

受講者数 29人

内 容 陶芸入門講座を修了した者、又は同程度の者を対象にして、茶碗・壺・花瓶等を制作し、ロクロの技法についても学習した。

(10) 七宝焼入門講座

期 日 昭和60年12月3日(火)・4日(水) 2日間

講 師 千葉大学教授 長南光男

受講者数 19人

内 容 ペン皿、ブローチ、ペンダント、タイピンなどの装飾品の制作を通して、七宝焼の材料や技法更に焼成の方法について学習した。

(11) 金工入門講座

期 日 昭和61年2月18日(火)・19日(水)・20日(木)・21日(金)・22日(土) 5日間

講 師 県美術会常任理事 鈴木治平

受講者数 12人

内 容 銅製の容器を素材として、金属の特性を生かした彫金の基礎的な技法をはじめ、着色の技法などについて学習した。

(12) 書芸入門講座

期 日 昭和61年1月21日(火)・28日(火)・2月4日(火)・11日(火)・18日(火) 5日間

講 師 県美術会理事 宇津木雀声

受講者数 28人

内 容 階書、行書、草書、など各書体の練習を通し、書芸の基礎的な学習をした。

(13) 書芸研修講座

期 日 第1期 昭和60年8月27日(火)・28日(水) 2日間

第2期 昭和61年2月25日(火)・26日(水) 2日間

講 師 第1期 県美術会常任理事 種谷扇舟

第2期 県美術会常任理事 浅見錦龍

受講者数 第1期 30人

第2期 17人

内 容 書芸入門講座を修了した者又は同程度の者を対象として、条幅の書き方を中心に様々な表現について学習した。

(14) てん刻入門講座

期 日 昭和60年7月11日(木)・12日(金)・18日(日) 3日間

講 師 県美術会会員 霊園鴻甫

受講者数 26人

内 容 受講者の名前を印材に刻み、印刀などの用具や材料の使い方等について、基礎的な学習をした。

(15) てん刻研修講座

期 日 昭和61年1月24日(金)・25日(土)・26日(日) 3日間

講 師 県美術会会員 霊園鴻甫

受講者数 29人

内 容 てん刻入門講座修了した者又は同程度の者を対象として、題材を自由に選び、てん刻技法について学習した。



美術鑑賞の旅

美術作品や文化財を訪ねながら、美を観る眼を養うことを目的に、友の会と共催で美術鑑賞の旅を行った。

古都鎌倉と近代の美を探る

期 日 昭和60年 6 月26日(木)

参加者数 72人

春の美術鑑賞の旅は、川崎のまんが寺と鎌倉の明月院，神奈川県立近代美術館等を訪れた。神奈川県立近代美術館では、生誕100年を記念して開催していた「萬鉄五郎展」を鑑賞した。

晩秋の安曇野逍遙 ―北アルプスと碌山美術館―

期 日 昭和60年10月 3 日(木)～ 4 日(金)

参加者数 48人

秋の美術鑑賞の旅は、信州を訪れた。

諏訪湖畔の北沢美術館，松本市の浮世絵博物館，穂高町の碌山美術館，茅野市の八が岳美術館などを見学した。

宿泊した浅間温泉では、折よく奇祭として有名な“たいまつ祭”も見ることができた。



千葉県立美術館友の会（葉美会）

(1) 運営方針

- ① “みる・かたる・つくる” 美術活動に積極的な参加する。
- ② 組織の拡充と活動の充実をはかる。

(2) 組 織

① 会員数	867名			
② 役員				
顧問	始 関 妙			
名誉会員	松 戸 節 三			
〃	市 原 正 夫			
〃	高 橋 在 久			
会長	鈴 木 民 三			
副会長	江 尻 幹 雄			
〃	平 野 馨 瑠 璃			
〃	新 城 守 一			
監事	小 室 寿 美 子			
〃	三 宅 康 高 亮			
〃	林 安 田 博 り 子			
理事	中 島 禎 一 郎			
〃	押 尾 元 三 郎			
〃	平 野 敬 美 雄			
〃	大 藤 秀 了 子			
〃	石 井 幸 功 衛			
〃	青 木 幸 勝 志 夫			
〃	中 村 弘 子 夫			
〃	大 里 充 茂 哲 夫			
〃	松 本 忠 勝 夫			
〃	足 立 忠 勝 夫			
〃	長 倉 忠 勝 夫			
〃	鈴 木 弘 子 夫			
〃	野 沢 充 茂 哲 夫			
〃	実 藤 茂 哲 夫			
〃	糸 賀 茂 哲 夫			
〃	中 村 照 夫			
〃	高 村 鐘 藏 雄			
評議員	大 高 俊 雄			
〃	木 内 俊 雄			

評 議 員	安 達 園 子
〃	横 沢 正 雄
〃	高 橋 喜 一 郎
〃	芳 垣 良 一 郎
〃	加 藤 信 子
〃	西 田 葆 和
〃	藍 野 正 和
〃	植 木 照 子
〃	広 瀬 慶 子
〃	花 田 之 宏
〃	渡 辺 美 智 子
〃	米 倉 澄 夫
〃	林 美 貴 枝
〃	日 暮 幸 子
〃	酒 井 千 代 子
〃	近 藤 愛 子
〃	佐 藤 裕 子
〃	今 井 忠 昭
〃	今 井 博
〃	日 色 義 忠
〃	落 合 芳 枝
〃	須 藤 瑛 子

(3) 事 業

- ① 友の会だより“しおさい”の発行、年5回、各1,200部発行し、会員等に配布した。
- ② 第10回葉美会展の開催
会 期 昭和61年2月4日(火)～2月16日(日)
展示点数 86点
会員が作品を発表し、お互いの作品を鑑賞しながら語り合うことにより、創作の楽しみを分かち合う機会とした。
- ③ 館事業への協力
館に協力して、美術鑑賞の旅やボランティア解説会などを行ったほか、県民アトリエ事業に積極的に参加した。

昭和60年度事業一覽

月	み	る	か たる ・ つ く る
4	4 . 2	常設収蔵作品展 (第 I 期)	
		第11回武蔵野美術大学校友会千葉県支部展 (4/9～4/14)	
5	5 . 17	第22回全日本綜合書道大展覧会 (4/16～4/21)	
		第5回千葉美術工芸展 (4/16～4/29)	
		千葉等迦展 (4/23～4/29)	
		第11回歩会彫刻展 (4/23～5/6)	
		第9回墨の県展 (5/1～5/6)	
		第12回千葉新協展 (5/1～5/6)	
		第30回二科会千葉支部展 (5/8～5/12)	
		二紀会千葉県支部展 (5/8～5/12)	
		第16回表美展 (5/14～5/19)	
		千葉市アマチュア美術展覧会 (5/14～5/19)	
6	6 . 16	特別展「ゴヤ連作全版画展」	
		デンマーク手造りじゅうたん展示会 (5/21～5/26)	■美術講演会(1) (5/26)
		富士美術会展 (5/28～6/2)	日本画入門(5月～7月)
		第12回千虹会日本画展 (5/28～6/2)	
		第8回千葉一陽展 (6/4～6/9)	
		第11回猊展 (6/4～6/9)	
		第10回関東全展 (6/11～6/16)	洋画研修(1) (6月)
		第32回千葉県書道協会展 (6/18～6/23)	■美術を語る会(1) (6/8)
		日本画秀峰会展 (6/18～6/30)	洋画入門(1) (6月)
		第9回精鋭展 (6/25～7/7)	陶芸入門 (6月～7月)
7	7 . 16	第3回明日を拓く教育美術展 (7/2～7/7)	
		第1回日本水彩画会千葉県支部展 (7/9～7/14)	
		第2回レリーフ・反レリーフ展 (7/9～7/21)	
		第57回習美会初夏展 (7/16～7/21)	
		第5回日本春秋書院千葉県書道連盟展 (7/16～7/21)	てん刻入門 (7月)
		第17回千葉市水墨画同好会連合会展 (7/23～8/4)	デッサン入門(1) (7月)
		千葉中美展 (7/30～8/4)	■美術館夏季大学 (7/26～7/27)
		第14回写真千葉県展 (8/6～8/18)	
		第5回千葉サンケイ現代洋画展 (8/6～8/18)	
		第11回子どもと教師の作品展 (8/20～8/25)	
8	8 . 18	第13回千葉市教職員美術展覧会 (8/20～8/25)	
		尽墨会書作展 (8/20～8/25)	版画入門 (8月)
		第18回千葉県高等学校合同写真展 (8/20～8/25)	デッサン入門(2) (8月)
		特別展「フランス名画展」	洋画入門(2)(8月～9月)
		第31回静雅書道会小中学部千葉地区展 (8/27～9/1)	書芸研修(1) (8月)
		第6回龍峽書道会千葉県人展 (8/27～9/1)	
		第4回刻字千葉展 (8/27～9/1)	
		第15回いてふ会彫刻展 (8/27～9/1)	
		第9回千葉県移動美術館	
		第25回白扇書道会展 (9/3～9/8)	■美術講演会(2) (9/1)
9	9 . 16	中国名画展 (9/10～9/16)	彫塑入門 (9月)
		第17回ファンシー洋画展 (9/18～9/23)	■美術を語る会(2) (9/14)
		第15回新構造千葉支部展 (9/18～9/23)	洋画研修(2) (9月)

月	み	る	か たる ・ つ くる
9		第 8 回千葉県写真展 <千葉県芸術祭> (9 / 18 ~ 9 / 23)	
		第23回新世紀美術協会千葉支部展 (9 / 18 ~ 9 / 23)	
	9.19	房総の美術家シリーズ(15)「今関啓司展」	デッサン入門(3) (9 月)
	9.19	常設収蔵作品展 (第Ⅱ期)	陶芸研修 (9 月 ~ 11 月)
10	9.23		☑美術を語る会(3) (9 / 28)
	9.26	第 9 回千葉県移動美術館	
		第35回千葉デザイン展 <千葉県芸術祭> (9 / 25 ~ 9 / 29)	
		第32回千葉県勤労者美術展 <千葉県芸術祭> (9 / 25 ~ 9 / 29)	
11		日本書道学会千葉県連合会書道展 (9 / 25 ~ 9 / 29)	
		昭和60年度第28回千葉市小中養護学校	洋画研修(3)(10月~11月)
	10.13	児童生徒作品総合展覧会 (10/ 1 ~ 10/ 6)	洋画入門(3) (11月)
	10.15	第 3 回日中友好書道展覧会 (10/ 8 ~ 10/13)	七宝焼入門 (12月)
12		第12回文化書道千葉県連合会公募展覧会 (10/ 8 ~ 10/13)	☑美術を語る会(4) (11/30)
		第 5 回二科会写真部千葉支部展 (10/ 8 ~ 10/13)	
		第37回千葉県美術展覧会 <千葉県芸術祭> (10/19~11/10)	
		千葉県高等学校総合芸術祭、美術・	
1		工芸・書道作品展 (11/13~11/24)	
		第30回こども県展 (11/26~12/ 8)	日本画研修 (11月~12月)
		第 8 回千葉展 (12/10~12/22)	
	12.13	常設収蔵作品展 (第Ⅲ期)	
2		第 1 回千葉日韓親善美術交流展 (1 / 7 ~ 1 /12)	
		第22回登龍社宮坂会書初展 (1 / 7 ~ 1 /12)	
		第15回千葉県大学美術連盟展 (1 / 7 ~ 1 /12)	
		第 3 回明るい社会づくり	
3		ポスターコンクール展覧会 (1 /14 ~ 1 /19)	
		・ ・ はれ展 (1 /14 ~ 1 /26)	
		第 3 回千葉県医師会美術展 (1 /21 ~ 1 /26)	書芸入門 (1 月 ~ 2 月)
		第13回 現代書道50人展・現代書壇代表作展・	てん刻研修 (1 月)
4		千葉書壇秀拔展・千葉書壇新進展 (1 /28 ~ 2 / 2)	
		千葉盲学校陶芸展 (1 /28 ~ 2 / 2)	
		昭和60年度千葉大学教育学部美術科卒業制作展 (2 / 4 ~ 2 / 9)	☑美術を語る会(5) (2 / 1)
		第20回千葉大学学生書道展 (2 / 4 ~ 2 / 9)	金工入門 (2 月)
5		第38回千葉県小中高校書初展覧会 (2 / 4 ~ 2 / 9)	書芸研修(2) (2 月)
		第10回葉美会展覧会 (2 / 4 ~ 2 /16)	
		子ども造形展 (2 /11 ~ 2 /16)	
		親子絵画展 (2 /11 ~ 2 /16)	
6		第11回千葉県民写真展 (2 /11 ~ 2 /23)	
		第 9 回唱和会書展 (2 /18 ~ 2 /23)	
		幕張北高校書道コース卒業制作展 (2 /18 ~ 2 /23)	
		群鳴書人展 (2 /25 ~ 3 / 2)	
7		書星選抜展 (2 /25 ~ 3 / 2)	
		和洋女子大学卒業展 (雁鴻会書道展) (2 /25 ~ 3 / 2)	
		秋耕会千葉支部展 (2 /25 ~ 3 / 2)	
8		昭和60年度第17回千葉市民美術展覧会 (3 / 4 ~ 3 /23)	
		(	
9	3.30	第33回書星教育部展 (3 /25 ~ 3 /30)	

太字は本館の企画展

利用状況

昭和60年度入館者一覧

種別 月	開館 日数	個 人			団 体						人数合計	備 考
		一般成人	大・高生	中・小生	一般成人		大・高生		中・小生			
					人 数	団体数	人 数	団体数	人 数	団体数		
4	25	4,375	293	974	129	4	38	1	311	3	6,120	
5	27	11,002	680	1,791	20	1	0	0	483	5	13,976	} 特別展 「ゴヤ連作 全版画展」
6	26	9,099	821	814	469	13	0	0	0	0	11,203	
7	26	5,627	254	1,203	496	13	137	2	141	3	7,858	
8	27	9,822	912	2,171	68	2	0	0	95	2	13,068	} 特別展 「フランス 名画展」
9	25	18,344	1,114	2,005	700	14	167	4	729	4	23,059	
10	23	20,121	577	5,486	410	12	589	3	3,452	21	30,635	
11	25	13,445	829	3,265	363	13	247	3	1,811	19	19,960	
12	21	9,129	185	4,828	95	3	0	0	286	5	14,523	
1	23	6,536	252	1,537	273	7	0	0	170	3	8,768	
2	24	8,445	656	2,976	258	7	74	2	478	6	12,887	
3	26	10,882	575	2,664	270	8	0	0	271	5	14,662	
計	298	126,827	7,148	29,714	3,551	97	1,252	15	8,227	76	176,719	

開館以来 総開館日数 3,306日 総入館者数 1,725,067人

地域別入館者状況

種別 月	開館 日数	県 内		県 外		その他外国(人)
		千葉市(人)	その他の県内(人)	東京都(人)	その他の県外(人)	
4	25	3,958	1,829	183	137	13
5	27	8,078	5,254	387	257	0
6	26	7,131	3,528	321	221	2
7	26	4,139	3,302	266	148	3
8	27	6,582	5,703	363	417	3
9	25	13,247	8,517	711	583	1
10	23	21,647	7,824	342	811	11
11	25	10,317	8,979	350	313	1
12	21	6,782	7,377	165	198	1
1	23	5,008	3,259	290	155	56
2	24	7,180	5,076	302	327	2
3	26	8,870	4,819	546	418	9
計	298	102,939	65,467	4,226	3,985	102
累計		168,406		8,211		102

作品貸出一覧

作家名	作品展	出陳展覧会名	会期・展示会場	貸出先
浅井 忠	農 婦 人 像	近代日本の洋画展	60.3.2～4.7 姫路市立美術館	姫路市立美術館
安井曾太郎	奈 良 郊 外 熱 海 附 近			
菱川師宣	風 俗 画	開館記念菱川師宣展	60.3.21～6.20 菱川師宣記念館	安房郡鋸南町
〃	古 代 模 様 絵 抄		(60.4.12～5.12の間貸与)	
〃	諸 国 名 所 歌 物 語 上			
〃	大 和 武 者 絵 記			
〃	道 能			
藤田喬平	飾 簀 朱 雀	「日本の美」—ジャポネズリーのルーツ—	60.5.19～6.23 東京都庭園美術館	東京都庭園美術館
松本雄治	大母神、天を翔ける	松本雄治彫刻個展	60.5.27～6.8 円島洞画廊	松 本 雄 治
浅井 忠	藻 屋 根	「日本の四季」名作展	60.6.1～6.30 石川県立美術館	読売新聞社
後藤純男	山 門 雨 後			
コロー	フォンテンブローの風景	親と子で見るフランス名画展	60.6.1～6.23 姫路市立美術館	美術館連絡協議会
クールベ	雪 の 中 の 小 鹿		60.6.29～7.1 滋賀県立近代美術館 60.7.26～8.18 栃木県立美術館 60.8.23～9.16 千葉県立美術館 60.9.21～10.13 福井県立美術館 60.10.18～11.10 大分県立美術館 60.11.15～12.8 長崎県立美術館	
東山魁夷	秋	日本芸術院受賞作家展—現代美術の精華—	60.8.3～9.1 郡山市民文化センター	福島民報社
若木 山	海	再興院展七十年の歩み展	60.9.10～9.23 日本橋三越本店	日本美術院 日本経済新聞社
香取秀真	鉢 鉄 茶 釜	“侘びの造形・茶の湯釜”展	60.9.10～10.20 サントリー美術館	サントリー美術館
〃	菊 文 釜			
石井柏亭	老 太 々	第70回記念「二科回顧展」	60.9.12～9.24 大丸東京店 60.10.4～10.10 名古屋三越本店 60.11.1～11.6 近鉄百貨店阿部野店	二科会 サンケイ新聞大阪本社
椿 貞雄	自 画 像	特別展「岸田劉生と草土社」	60.9.14～10.20 下関市立美術館	下関市立美術館
〃	八 重 子 像			
〃	横 堀 角 次 郎 兄 像			
山谷鉄一	風 風	山谷鉄一 —油絵回顧展—	60.9.24～9.30 セントラルギャラリー	セントラルギャラリー
〃				
浅井 忠	藻 屋 根	四季名作展	60.9.26～10.8 横浜高島屋	読売新聞社
大下藤次郎	青 梅 花	特別展「水彩画の父 大下藤次郎」	60.9.28～11.3 青梅市立美術館	青梅市立美術館
〃	紫 陽 湖			
〃	久 々 子			
和田英作	塚 本 靖 肖 像	「日本近代洋画史における郷土作家たち」その1 黒田清輝 藤島武二 和田英作	60.10.29～11.24 鹿児島市立美術館	鹿児島市立美術館
浅井 忠	バ リ 公 園	パリを画いた日本人画家展	60.12.2～61.2.2 バリ市立カルナバル美術館	神奈川県立近代美術館
原 勝郎	モ ン マ ル ト ル		61.2.22～3.23 神奈川県立近代美術館	三重県立美術館
			61.3.29～5.5 三重県立美術館	朝日新聞社
梅原龍三郎	皇 居	「回想の江戸・東京」展	61.1.11～2.23 東京都庭園美術館	東京都庭園美術館
荒谷直之介	白船入港（マラガ）	郷土出身作家 荒谷直之介回顧展	61.2.27～3.30 富山県民会館美術館	富山県民会館
〃	大 原 女			
〃	若 い 裸 婦 たち			
岩崎巴人	闘 う 牛	特別展 「天真の表現世界 岩崎巴人」	61.2.28～3.30 青梅市立美術館	青梅市立美術館
〃	海流の中に立つ裸女			
〃	波 濤 岩 礁 図			
〃	風 の 中 の 帆 迦			
浅井 忠	農 老 母 婦 人 像	特別展「近代洋画のあけぼの —関西画壇と郷土作家たち—」	61.3.5～3.23 倉敷市立展示美術館	倉敷市立展示美術館
〃	婦 人 像			
〃	秋の山（大和初瀬村）			
加藤源之助	婦 人 像			
都島英喜	秋	開館三周年記念展 「現代の日本画」	61.3.15～4.13 姫路市立美術館	姫路市立美術館
東山魁夷	秋			

刊行物一覧

区 分	事 業 案 内	千 葉 美 術 館 立 報	千 葉 美 術 館 年 報	和 ・ フ レ ッ ト ・ 英 文	常設収蔵作品展 目録					特 別 展						企画展		厚 絵 の 美 術 史 月 報
										「ゴヤ連作全版画展」			「フランス名画展」			「今関啓司展」		
					第Ⅰ 期	新 収 蔵	新 収 蔵	第Ⅱ 期	第Ⅲ 期	図 録	ち ら し	ポ ス タ ー	図 録	ち ら し	ポ ス タ ー	ち ら し	ポ ス タ ー	
規 格	A 4	B 5	B 5	B 4	B 5	B 5	B 5	B 5	B 5	A 4	B 5	B 2 ・ B 3	A 4	B 5	B 2 ・ B 3	B 5	A 2	B 5
頁 数	6	6	・ 56	8	4	2	2	2	6	210	2		148	2		2		4
発 行 部 数	15,000 ・20,000	各 3,000	1,000	15,000	5,000	5,000	1,000	2,000	2,500	1,000	20,000	1,000 ・ 500	1,000	15,000	1,000 ・ 500	1,000	1,000	各 500
備 考	三ッ折 昭和60年 度版・6 61年度版	「みる・か たる・つ くるVol 12No1～3	昭和59年 度版 ・本文	四ッ折・ 変形						変形		・車内 吊版			・車内 吊版			No31 ・ 42

日 誌 抄

- | | | | |
|-------|---------------------------------|--------|--|
| 4月1日 | 辞令交付、離着任式 | 9月19日 | 企画展「今関啓司展」(10月13日まで) 常設
収蔵作品展<第II期>(10月13日まで) |
| 2 | 常設収蔵作品展<第I期>(8月18日まで) | 26 | 千葉県移動美術館(君津市役所、10月15日まで) |
| 24 | 美術館友の会役員会(1)、総会 | 28 | 美術を語る会(3) |
| 5月27日 | 特別展「ゴヤ連作全版画展」(6月16日まで) | 10月3日 | 美術鑑賞の旅(2)(碌山美術館ほか4日まで) |
| 26 | 美術講演会(1) | 14 | 美術館友の会役員会(2) |
| 6月8日 | 美術を語る会(1) | 21 | バンクーバーアートギャラリー館長ダンカー
女史来館 |
| 10 | 美術館協議会(1) | 11月22日 | 美術館資料審査委員会(2) |
| 13 | 関東地区博物館協会研究協議会(鴨川市14
日まで) | 30 | 美術を語る会(4) |
| 17 | 美術館資料審査委員会(1) | 12月13日 | 展示室利用調整会議、常設収蔵作品展
<第III期>(61年3月30日まで) |
| 26 | 美術鑑賞の旅(1)(神奈川県立近代美術館ほか) | 1月7日 | 美術館友の会役員会(3) |
| 7月2日 | 美術館研究員会議(1) | 2月1日 | 美術館研究員会議(2) 美術を語る会(5) |
| 22 | 博物館実習(27日まで) | 3 | 美術館協議会(3) |
| 26 | 美術館夏季大学(27日まで) | 4 | 美術館友の会葉美会展(2月16日まで) |
| 8月23日 | 特別展「フランス名画展」(9月16日まで) | 3月4日 | 県立美術館・博物館長会議 |
| 9月1日 | 美術館講演会(2) | 5 | 関東地区博物館協議会理事会 |
| 2 | 防災訓練(1) | 10 | 防災訓練(2) |
| 7 | 美術館協議会(2) | 18 | 美術館協議会(4) |
| 11 | 千葉県移動美術館(八千代市文化センター
9月23日まで) | 27 | 朝鮮社会科学代表团来館 |
| 14 | 美術を語る会(2) | | |

関係法令等

1. 博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号

(目的)

第1条 この規則は、教育機関設置条例（昭和32年千葉県条例第4号）第20条に規定する博物館（以下「館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2. 館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 館の休館日は、次のとおりとする。

- 一 定期休館日 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する日に当たるときは、その翌日）
- 二 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- 三 年始休館日 1月1日から1月4日まで
- 四 年末休館日 12月26日から12月31日まで
- 五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2. 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めた場合は、館の全部又は一部を開館することができる。

(入館の制限)

第4条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- 一 特別展覧会を観覧しようとする者で、所定の観覧券を所持しないもの
- 二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳に満たない者
- 三 でい酔者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

(観覧券等)

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2. 団体（20人以上の場合をいう。）で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書（別記第2号様式）により、館長に申し込まなければならない。

(禁止行為)

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

- 一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、墨汁類を使用すること
- 二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。

三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食すること。

四 その他他の入館者の妨げになるような行為すること。

(損害の賠償)

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代価をもって弁償させることがある。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める。

附 則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

別記様式（省略）

2. 使用料及び手数料条例（抜粋）

昭和31年3月31日条例第6号

(趣 旨)

第1条 県が徴収する使用料及び手数料（以下「使用料等」という。）に関しては、別に規定するもののほか、この条例の定めるところによる。

(使用料等の徴収)

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設（以下「財産等」という。）の使用並びに特定の個人のためにする事務（以下「事務」という。）に関し、法令及び他の条例に規定するもののほか、当該財産等を使用しようとする者から使用料を、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

(種類及び額)

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は、別表第一に掲げるとおりとする。

(中 略)

別表第一抜粋

財産又は事務の種類	手数料	区 分	単 位	額
博 物 館	入館料	特 別 展 覧 会	1人1回 につき	500円 以内

(徴収の特例)

第8条の2 県民の日を定める条例（昭和59年千葉県条例第3号）に規定する県民の日その他規則で定める場合において、県の設置した公の施設で、規則で定めるものに係る使用料については、第2条及び第3条の規定にかかわらず、これを徴収しない。

(以下省略)

使用料及び手数料規則（抜粋）

昭和31年千葉県規則第29号

第7条の2（省 略）

別表第六（抜粋）

行 事 等	施 設
県民の日（6月15日）。 65歳以上の者、身体障害者（介護者を含む。）又は精神薄弱者が使用する場合。	博物館

3. 展示室使用料

昭和56年4月1日千葉県教育委員会教育長指令第116号

1. 千葉県立美術館展示室等の使用料については、使用料及び手数料条例第5条第3項に基づき減免することとし、当分の間次表のとりの額とする。

区 分	室 名	面 積	使 用 料 (午前9時から午後5時まで)	
			観覧料無料、 物品を販売しない場合（減 免率3分の2）	観覧料有料又は 物品を販売する場合（減 免率3分の1）
展 示 棟	第一展示室	438㎡	5,500円	11,000円
	第二展示室	400㎡	5,000円	10,000円
	第三展示室	469㎡	6,000円	12,000円
	第四展示室	403㎡	5,500円	11,000円
	第五展示室	824㎡	11,000円	22,000円
	第六展示室	330㎡	4,500円	9,000円
	第七展示室	567㎡	7,500円	15,000円
	全 展 示 室	3,431㎡	43,000円	86,000円
県 民 工 業 博 物 館	講 堂	259㎡	4,500円	9,000円
	研 修 室	75㎡	1,500円	3,000円

ただし、県及び県教育委員会が共催する場合並びに国又は他の地方公共団体の主催ないし共催する行事に係る使用の場合は無料とし、県教育委員会が特に教育的、文化的意義を認め後援する行事に係る使用の場合は上記の半額とする。

2. 千葉県立美術館展示室等の使用の許可に関する取扱いは、別紙「千葉県立美術館展示室等の使用許可に関する取扱要綱」によるものとする。

（別紙 要綱は本紙省略）

●千葉県立美術館友の会会則

（名 称）

第1条 本会は、千葉県立美術館友の会という。（略称、葉美会）

（事務所）

第2条 本会は、事務局を千葉県立美術館内におく。

（目 的）

第3条 本会は、千葉県立美術館（以下「館」という。）の活動に協力し、楽しいふんい気のなかで、教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深めることを目的とする。

（事 業）

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業をおこなう。

- 1 館の展覧会の見学鑑賞
- 2 講演会、講習会、研究会等
- 3 館外見学会
- 4 機関紙等の編集刊行
- 5 その他目的達成に必要な事業

（会 員）

第5条 本会は、会の目的に賛同するものをもって組織する。

1. 会員には次の特典がある。

- ① 館の主催又は共催による展覧会観覧の優待
- ② 美術館報「みる・かたる・つくる」ならびに友の会機関紙の配布
- ③ 本会発行の図録等の配布及び割引購入
- ④ 本会事業への参加

2. 本会活動に協力し、賛助会費を納めたものは賛助会員とする。

（会員の加入・退会）

第6条 本会に加入する場合は申込書に年会費を添えて事務局に提出するか、郵便振替にて申し込み、会員証の交付を受ける。退会の際は退会届を提出する。

（役 員）

第7条 本会に次の役員をおく。

会長1名 副会長3名（ただし内1名は美術館長があたる）

理事若干名 事務局長1名 監事3名 評議員若干名

1. 会長・副会長・理事・事務局長・監事の選出は評議員会において推挙する。

2. 役員の任期は2年とする。ただし再任は防げない。

（役員等の任務）

第8条 本会の役員の任務は次のとおりとする。

1. 会長は本会を代表して会務を総理し、会議を召集し、その議長となる。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理する。
3. 理事は会の運営にあたる。
4. 事務局長は会務を処理する。
5. 監事は本会会計の監査をする。

（顧問・名誉会員）

第9条 この会に顧問及び名誉会員をおくことができる。名誉会員は評議員会で推挙する。

（支 部）

第10条 地域、並びに職域ごとに20名以上の会員を有する場合は支部をおく。

（評議員会）

第11条 各支部より20名につき1名の制で推せんされた代表と賛助会員及び講座代表をもって評議員会を構成する。評議員会は毎年1回以上開き、事業計画、予算、役員の決定その他の重要方針を決議する。

（会 費）

第12条 本会の会費は次の通りとする。

1. 普通会员 上半期入会（4月～9月）2,000円
下半期入会（10月～12月）1,000円

（経 費）

第13条 本会の経費は会費、寄附金、事業収益金、その他の収入をもってあてる。

（会計年度）

第14条 本会の会計年度は毎年4月1日にはじまり、翌年3月31日におわる。

（職 員）

第15条 本会の事務職員は館に勤務する者以外から、会長が委嘱する。

（付 則）

1. 本会の会則は評議員会で出席者の過半数の同意を得なければ変更することができない。

2. 本会則は昭和50年6月28日より施行する。

●昭和51年5月29日一部改正

●昭和52年4月21日一部改正

●昭和53年4月22日一部改正

●昭和54年4月28日一部改正

●昭和56年4月28日一部改正

●昭和59年4月23日一部改正

●昭和60年10月14日一部改正

昭和61年度展覧会

常設展

常設 収蔵作品展

会期 第Ⅰ期 4月1日(火)～6月8日(日)
第Ⅱ期 7月25日(金)～10月19日(日)
第Ⅲ期 12月5日(金)～3月31日(火)
内容 本館が所蔵する日本画、洋画、彫塑、工芸、書、版画の作品を3期にわけて順次展覧するほか、新たに収蔵された作品を紹介する。

特別展

ヨーロッパ近代絵画の巨匠たち

会期 6月13日(金)～7月18日(金)
内容 モネ、ドガ、ルノアール、シニャック、セザンヌ、ゴーギャン、ゴッホ、ボナール、ルドン、マチス、ルオー、ピカソ、モジリアニ、ローランサン、シャガール等19世紀中頃から20世紀前半において、フランスを中心として活躍した印象派以後の作家に焦点をあて、近代絵画の流れを約30作家70点の作品により展覧する。

“国立美術館所蔵内外美術展”

浜口陽三展

会期 8月16日(土)～9月15日(月)
内容 銅版画に独自の世界を開拓した、千葉県ゆかりの国際的版画家である浜口陽三の作品約130点を展覧する。

昭和61年度職員

館長	平野 馨
副館長	糸賀 茂夫
庶務課	
主査	林 康高
主任主事	一 杉 徹
主事	伊藤 和子
主任技師	岩瀬 隆司
主任運転手	篠原 恒雄
主任用務員	長 島 則子
学芸課	
主査 兼 学芸課長	中 村 哲
主査	中 地 昭男
〃	鈴木 喜久夫

企画展

“房総の美術家シリーズ” —16—

富取風堂展

会期 9月13日(土)～10月12日(日)
内容 永く市川市に在住し、院展を中心に活躍するとともに、千葉県における美術活動の振興に多大の貢献をされた富取風堂(1892～1983)の代表的作品を展覧する。

第10回 千葉県移動美術館

会期 9月26日(金)～10月14日(火)
丸山町中央公民館
10月17日(金)～10月30日(日)
浦安市中央公民館
内容 優れた美術作品を、より多くの県民の方々に鑑賞していただくため、本館所蔵作品による展覧会を2会場で開催する。

第2回 現代日本具象彫刻展

会期 1月31日(土)～3月1日(日)
内容 県立青葉の森公園の彫刻広場に設置する作品を全国公募し、その入賞作品及び入選作品を展覧する。

事業班

学芸員	米田 耕司
〃	大久保 守
〃	藤川 正司
〃	小泉 幸代
〃	相川 順子

普及班

副主査	高村 照夫
副主事	飯村 洋子
文代財主事	田坂 浩
学芸員	金田 雅成
嘱託	小高 正

利用案内

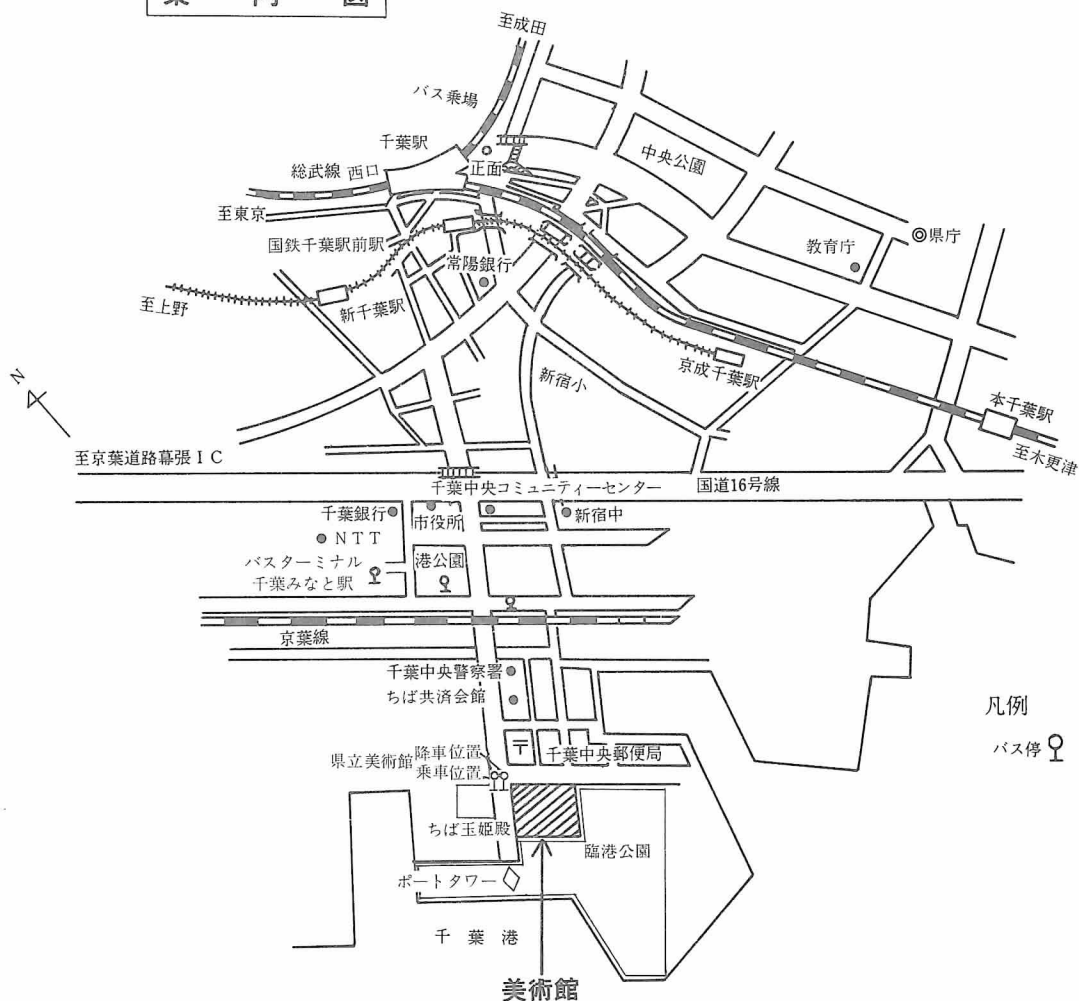
開館時間

- 開館時間** 午前9時より午後4時30分まで
- 休館日**
- ・月曜日（ただし、月曜が祝日のときは開館し、翌日休館）
 - ・年末年始（12月26日～1月4日）
 - ・展示替等のため、必要があるとき。
- 入館料** ・無料（ただし、特別展は有料）
- 団体観覧** ・団体で来館されるとき、あらかじめ御連絡あれば作品等の解説をします。

交通

- 国鉄千葉駅よりバス15分、県立美術館前下車、徒歩1分。
- 国鉄京葉線「千葉みなと」下車、徒歩8分。

案内図



みる・かたる・つくる

千葉県立美術館年報（昭和60年度）

発行 千葉県立美術館

〒260 千葉市中央港1-10-1

TEL 0472 (42) 8311(代表)

印刷 有限会社 正文社
